

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪電気通信大学
設置者名	学校法人大阪電気通信大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
工学部	電気電子工学科	夜・通信	—	23	72	95	13	—
	電子機械工学科	夜・通信		19	50	69	13	—
	機械工学科	夜・通信		21	47	68	13	—
	基礎理工学科	夜・通信		21	14	35	13	—
	環境科学科	夜・通信		23	54	77	13	—
	建築学科	夜・通信		18	30	48	13	—
情報通信工学部	情報工学科	夜・通信		25	26	51	13	—
	通信工学科	夜・通信		23	32	55	13	—
医療福祉工学部	医療福祉工学科	夜・通信		6	32	38	13	—
	理学療法学科	夜・通信		6	28	34	13	—
	健康スポーツ科学科	夜・通信		6	23	29	13	—
総合情報学部	デジタルゲーム学科	夜・通信		10	64	74	13	—
	ゲーム&メディア学科	夜・通信		10	32	42	13	—
	情報学科	夜・通信	4	28	32	13	—	
金融経済学部	資産運用学科	夜・通信	2	36	38	13	—	

(備考)

総合情報学部デジタルゲーム学科 1年次及び2年次は新課程, 3年次及び4年次は旧課程。

総合情報学部情報学科 1年次から3年次は新課程, 4年次は旧課程。

工学部建築学科は2018年度の開設。

総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科は, 2015年度から募集停止。

金融経済学部資産運用学科は, 2018年度から募集停止。

医療福祉工学部 医療健康科学部に2020年度より名称変更

医療福祉工学科 医療科学科に2020年度より名称変更

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページにて公表:

<https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/work-experience/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名	なし
(困難である理由)	

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪電気通信大学
設置者名	学校法人大阪電気通信大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人のホームページ（以下URL）に掲載
<https://www.osakac.ac.jp/corp/about/member/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
岡本 清孝 (非常勤)	本学評議員 大阪電気通信大学友電 会副会長	2018/3/8 ～2021/3/7	寄付募金(大学同窓 会) 担当
藤田 宏道 (非常勤)	本学評議員 元大阪電気通信大学後 援会 会長	2018/3/8 ～2021/3/7	保護者からの情報 収集担当
北田 由博 (非常勤)	北田工業所 代表	2018/3/8 ～2021/3/7	寄付募金(高校同窓 会) 担当
河崎 忠弘 (非常勤)	元日産自動車販売協会 専務理事	2018/3/8 ～2021/3/7	ブランディング 担当
加藤 好文 (非常勤)	京阪ホールディングス 株式会社 代表取締役 会長 CEO	2018/3/8 ～2021/3/7	地域連携担当
都倉 信樹 (非常勤)	元大阪電気通信大学 学長	2018/5/26 ～2021/3/7	大学教育・研究(情 報教育) 担当
岸岡 清 (非常勤)	元大阪電気通信大学 工学部電子機械工学科 教授	2019/4/23 ～2021/3/7	学生支援・クラブ活 動支援担当
山口 重之 (非常勤)	元京都工芸繊維大学 副学長 名誉教授	2018/3/8 ～2021/3/7	大学教育・研究担当
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪電気通信大学
設置者名	学校法人大阪電気通信大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>○授業計画書の作成過程 各教員の作成後、各学科の主任，教務委員及び学部長等による内容の点検を経ている。</p> <p>○授業計画書の作成・公表時期 1月から2月頃にシラバスが作成され，点検を経て，履修登録開始の約1週間前（3月下旬）までに下記URLで公表している。</p> <p>【全学部共通】</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本学ホームページにて公表</p> <p>https://mypage.osakac.ac.jp/syllabus//select/openIndex/</p>

<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>シラバスにおいて「評価方法と評価観点」の項目を置き、「定期試験」、「小テスト」、「小論文」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」、「レポート」、「宿題」、「授業での姿勢（ノート、質疑など）」、「作品、パフォーマンス（実技、実演）」といった評価方法を示し、それぞれについて、「知識・理解力応用力」「創造力」「コミュニケーション力」「態度・志向性」といった評価観点及び、評価割合を示している。 このように、評価方法と評価観点ごとに評価の割合をあらかじめ示し、学修成果をはかるため試験等により厳格かつ適正な単位授与を実施している。</p> <p>【全学部共通】</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○客観的な指標（GPA）の設定の算出方法</p> <p>成績表示に用いる Grade Point は、次のとおり。 評点：Grade Point 100～90点：4 89～80点：3 79～70点：2 69～60点：1 59点以下、未受験等による評価不能：0 科目の単位数 × その科目で得た Grade Point</p> $\text{GPA (小数点第4位を四捨五入)} = \frac{\Sigma (\text{科目ごとに取得した Grade Point の総和})}{\Sigma (\text{履修登録単位数})}$ <p>合格・不合格をもって表す科目は算出の対象から除外。 最低履修登録単位数に満たない場合は順位付けの対象外。</p> <p>【全学部共通】</p> <p>○客観的な指標（GPA）の適切な実施状況 上記の算出方法に基づき、前期・後期の各値、累積の値を GPA 順位とともに学業成績表に記載し、学生に配付している。</p> <p>【全学部共通】</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.osakac.ac.jp/campuslife/class-related/classes/testing-results.php</p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○卒業の認定に関する方針の具体的な内容 本学では以下の「全学の統一的学位授与方針」をはじめ、学部・学科単位でディプロマ・ポリシーを定め、公表している。 ディプロマ・ポリシー (全学の統一的学位授与方針) 大阪電気通信大学は、時代のニーズにマッチした確かな技術力と人間力を身に付け、社会で役立つ人材を育成・輩出することを使命としています。そのため、実践的な実学の技能として、手と頭と心に次の3つの能力を修得していることを全学共通の要件としています。</p> <p>(1)【手】手が動かせること：学修した知識やツールを組み合わせ活用し、与えられた課題に着手できる力。</p> <p>(2)【頭】絵が描けること：考えていることやイメージしていることを図解などによってビジュアルに表現できる力。</p> <p>(3)【心】コミュニケーションができること：人の考えを聞いて理解し、自分の考えも適切に人に伝えられる力。</p> <p>さらに、それらを総合的に応用して、新たな課題を発掘していく創造力や、チームでの協働作業で自分の役割を果たしながら着実に課題を解決していく能力を培い、社会人としての責任感や倫理観を身に付けている者に「学士(所定分野)」の学位を授与します。 【全学部共通】</p> <p>○卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 本学では上記のとおり全学・学部・学科単位で定められたディプロマ・ポリシー及び学生の修得単位数をもとに、学部教授会において卒業要件*の充足状況を確認し、卒業の可否を審議する。なお、開講科目それぞれがディプロマ・ポリシーとどのように関係するかは、科目ごとのシラバスの目的欄に記載されている。 【全学部共通】</p> <p>※本学の卒業要件は次の通り。 必修科目(卒業研究・卒業制作を含む)・選択必修科目・選択科目の単位数について、学科ごとに指定された単位数以上修得していることを確認する。【全学部共通】</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	<p>本学ホームページにて公表 https://www.osakac.ac.jp/about/policy/pdf/policy.pdf 及び入学時に冊子「教育基本三方針」を配付</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪電気通信大学
設置者名	学校法人大阪電気通信大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人のホームページにて公表している。 https://www.osakac.ac.jp/corp/about/financial-data/
収支計算書又は損益計算書	学校法人のホームページにて公表している。 https://www.osakac.ac.jp/corp/about/financial-data/
財産目録	学校法人のホームページにて公表している。 https://www.osakac.ac.jp/corp/about/financial-data/
事業報告書	学校法人のホームページにて公表している。 https://www.osakac.ac.jp/corp/about/financial-data/
監事による監査報告(書)	学校法人のホームページにて公表している。 https://www.osakac.ac.jp/corp/about/financial-data/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページにて公表している。 https://www.osakac.ac.jp/about/self-assessment/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 本学ホームページにて公表している https://www.osakac.ac.jp/about/self-assessment/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部・情報通信工学部・医療福祉工学部（医療健康科学部に 2020 年度より名称変更）・総合情報学部・金融経済学部
教育研究上の目的（公表方法：本学 HP にて公表 https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/img/purpose.pdf ）
（概要 ◎工学部 ○電気電子工学科 電気電子工学科は、高度情報化社会を支える基盤技術である電気電子工学に含まれる多くの技術分野のうち、学生自身が適性ある分野を講義・実習を通して見極め、自らの目標を設定したうえで、多彩に配置された実験・演習を通して社会で活躍できる技術力を修得するよう育成することを目的とする。 ○電子機械工学科 電子機械工学科は、ロボットに代表される「メカトロニクス」の分野を教授する。“機械を自在に操る”ためには、機械分野、電気・電子分野、計測・制御分野、情報分野等の知識が必要であり、このような電気と機械を融合した技術分野のエンジニアの育成を目的とする。 ○機械工学科 機械工学科は、社会の基盤産業であるモノづくりに必要不可欠な機械工学の専門知識とそれを活かすための技術を総合的に教授することによって、国内外の産業界で広く活躍できる機械技術者を育成することを目的とする。 ○基礎理工学科 基礎理工学科は、現代の社会に求められる科学技術リテラシーを持つ人材として、広範な科学的知識、数理的思考力およびコミュニケーション能力を備えた技術者・研究者や教育者(数学・理科教員等)の育成を目的とする。 ○環境科学科 環境科学科は、健康や地球環境に寄与する機能性材料を創製するバイオ及び化学技術と、機械・電気技術の基礎及び応用能力を総合的に教授することにより、未来に貢献しうる専門的な人材の育成を目的とする。 ○建築学科 建築学科は、持続可能社会を実現する「人と環境に配慮した建物・まちづくり」を目指した教育研究を通じて、「人に対して安全かつ快適な空間であることを考慮しつつ、環境に対して自然との循環型共生や省エネルギーで環境負荷の低い建築物や都市を念頭に置いて、計画、設計、施工できる建築家や建築技術者を養成する」ことを目的とする。 ◎情報通信工学部 ○情報工学科 情報工学科は、情報技術の基盤であるコンピュータハードウェアとソフトウェア、ネットワークの基礎技術と応用技術及び最先端技術の習得を目的とする実学教育を通じて、学生の学習成果の向上と学習目標の達成を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的な人材の育成を目的とする。

○通信工学科

通信工学科は、情報通信社会を支える 3 要素（ブロードバンド・マルチメディア・インターネット）の技術について基礎から教授することにより、情報化社会の発展に貢献する通信のスペシャリストの育成を目的とする。

◎医療福祉工学部（医療健康科学部に 2020 年度より名称変更）

○医療福祉工学科（医療科学部に 2020 年度より名称変更）

医療福祉工学科は、安心・安全な医療・健康を実現するために、医学と工学を基盤とした医療健康技術について教授研究し、医療健康機器開発・医療安全管理技術に精通した総合医療エンジニア、医療業務に従事できる人間力・応用力を有した臨床工学技士の育成を目的とする。

○理学療法学科

理学療法学科は、医療や保健に携わる責任感と豊かな人間性を持ち、論理的思考の基礎となる科学的素養とともに、最新の医療知識と技術を備えた理学療法士の育成を目的とする。

○健康スポーツ科学科

健康スポーツ科学科は、科学的な視点を持ち、基礎医学やスポーツ科学の知識を備え、スポーツ実践能力及び情報処理技術を駆使して健康指導や教育、健康機器開発の出来る人材の育成を目的とする。また、勉学のみならず、豊かな人間性を育み、個性を大切にしながらも協調性や対人コミュニケーション、礼儀を重んじる良識ある社会人教育を目的とする。

◎総合情報学部

○デジタルゲーム学科

デジタルゲーム学科は、デジタルゲームを軸とする主に対話的なエンタテインメントコンテンツ分野の学際的研究や制作を通して、幅広い意味でのエンタテインメントに関する高度な知識と技術の修得を支援し、協調性とコミュニケーション能力を持って、広く社会及び産業界で継続的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

○ゲーム&メディア学科

ゲーム&メディア学科は、デジタルゲームを軸とする主に物語的なエンタテインメントコンテンツ分野の学際的研究や制作を行い、関連するメディアについての広範な知識と制作技術を修得し、その成果をもとにコンテンツの意義や魅力を広く社会に発信し、社会及び産業界で継続的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

○情報学科

情報学科は、進化し続ける ICT 技術や IoT 技術の基盤となる知識の習得、即戦力となり得る実践力の獲得、コミュニケーション能力等を中心とした社会性の向上の 3 項目を教育目標とし、コンピュータスペシャリストとして社会で活躍できる人材の育成を目的とする。

◎金融経済学部

○資産運用学科

資産運用学科は、国家経済の健全な発展と繁栄に寄与する目的を以って、国際的な視野に立ち、広範囲にわたる資産運用に関する実学教育を行い、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成を支援し、現代グローバル社会で活躍できる有能な専門的人材の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：本学 HP にて公表

<https://www.osakac.ac.jp/about/policy/pdf/policy.pdf> 及び入学時に冊子「教育基本三方針」を配付)

(概要)

大阪電気通信大学 ディプロマ・ポリシー

大阪電気通信大学は、時代のニーズにマッチした確かな技術力と人間力を身に付け、社会で役立つ人材を育成・輩出することを使命としています。そのため、実践的な実学の技能として、手と頭と心に次の3つの能力を修得していることを全学共通の要件としています。

(1)【手】手が動かせること：学修した知識やツールを組み合わせ活用し、与えられた課題に着手できる力。

(2)【頭】絵が描けること：考えていることやイメージしていることを図解などによってビジュアルに表現できる力。

(3)【心】コミュニケーションができること：人の考えを聞いて理解し、自分の考えも適切に人に伝えられる力。

さらに、それらを総合的に応用して、新たな課題を発掘していく創造力や、チームでの協働作業で自分の役割を果たしながら着実に課題を解決していく能力を培い、社会人としての責任感や倫理観を身に付けている者に「学士（所定分野）」の学位を授与します。

◎工学部 ディプロマ・ポリシー

工学部では、産業社会の基盤である総合的な工学技術を支え発展させ、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材の育成を目指しています。そのために、以下の科目群をバランス良く取得して所定の単位を修め、それぞれの学修課題に相応しい、以下の能力を培っている者に対して「学士（工学）」の学位を授与します。

(1)総合科目：豊かな人格形成の基盤となり、社会との関わりを考える力。

(2)基礎専門科目、学科専門科目：工学の基礎知識をしっかりと学び、最先端の技術革新にも対応できる応用力。

(3)実験・演習等の実践科目：実際に「手」を動かして与えられた課題に取り組める能力。

(4)プレゼミ、卒業研究：自ら目標を定め、それを達成する能力やコミュニケーションができる能力。

○電気電子工学科 ディプロマ・ポリシー

電気電子工学科は、次の能力を有すると認めた学生に学士（工学）の学位を授与します。

(1)知識・理解

・人と社会を理解し、自然に関する科学的知識と電気電子工学分野における基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用する能力を備えている。【DP-E-1-1】

(2)汎用的技能

・技術の伝達やグループ作業に必要な文章力とコミュニケーション力とを有している。

【DP-E-2-1】

・科学的な思考力で判断と決断を行い、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組める。

【DP-E-2-2】

(3)態度・志向性

・知識や技術を用いて、社会の発展のために貢献できる。【DP-E-3-1】

・獲得した技術を社会で正しく使用する倫理観と責任感を有している。【DP-E-3-2】

・最新科学技術の獲得とその応用のための研鑽を続けられる。【DP-E-3-3】

(4)総合的な学習経験と創造的思考力

・新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。【DP-E-4-1】

○電子機械工学科 ディプロマ・ポリシー

電子機械工学科は、次の能力を有すると認めた学生に学士（工学）の学位を授与します。

(1)知識・理解

・機械、電気・電子、計測・制御そして情報・コンピュータの分野における基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用する能力を備えている。

【DP-H-1-1】

(2)汎用的技能

・技術の伝達やグループ作業に必要な文章力とコミュニケーション力を有している。

【DP-H-2-1】

・科学的な思考力で判断と決断を行い、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組める。

【DP-H-2-2】

(3)態度・志向性

・知識や技術を用いて、社会の発展のために貢献できる。【DP-H-3-1】

・獲得した技術を社会で正しく使用する倫理観と責任感を有している。【DP-H-3-2】

・最新科学技術の獲得とその応用のために研鑽を続けられる。【DP-H-3-3】

(4)総合的な学習経験と創造的思考力

・新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。【DP-H-4-1】

○機械工学科 ディプロマ・ポリシー

機械工学科は、次の能力を有すると認めた学生に学士（工学）の学位を授与します。

(1)知識・理解

・機械工学分野における基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用する能力を備えている。【DP-J-1-1】

(2)汎用的技能

・技術の伝達やグループ作業に必要な文章力とコミュニケーション力を有している。

【DP-J-2-1】

・科学的な思考力で判断決断し、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組める。

【DP-J-2-2】

(3)態度・志向性

・知識や技術を用いて、社会の発展のために貢献できる。【DP-J-3-1】

・個性を發揮しながらも他者と協調して、自らの役割を、責任をもって果たすことができる。【DP-J-3-2】

・獲得した技術を社会で正しく使用する倫理観と責任感を有している。【DP-J-3-3】

・最新科学技術の獲得とその応用のための研鑽を続けられる。【DP-J-3-4】

(4)総合的な学習経験と創造的思考力

・モノづくりにおける実際の諸問題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。

【DP-J-4-1】

○基礎理工学科 ディプロマ・ポリシー

基礎理工学科は、次の能力を有すると認めた学生に学士（工学）の学位を授与します。

(1)知識・理解

・基盤科学における基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用する能力を備えている。

【DP-N-1-1】

(2)汎用的技能

・知識や技術の伝達に必要な文章力を持ち、協調してグループ作業するためのコミュニケーション力および論理的思考力を有している。

【DP-N-2-1】

・科学的思考力を有し、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組める。【DP-N-2-2】

(3)態度・志向性

・獲得した知識や技術を用いて社会を幅広い視野で捉え、その発展のために貢献できる。

【DP-N-3-1】

- ・知識と技術を正しく使用する倫理観と責任感を有している。【DP-N-3-2】
- ・最新科学の知識および技術とその応用のために自ら研鑽し習得できる。【DP-N-3-3】

(4)総合的な学習経験と創造的思考力

- ・新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・コミュニケーション力などを総合的に活用して問題を解決できる。

【DP-N-4-1】

○環境科学科 ディプロマ・ポリシー

環境科学科は、カリキュラム・ポリシーで示した「バイオ化学コース」、「エコ化学コース」、「エネルギー機械コース」のそれぞれにおいて、次の能力を有すると認めた学生に学士（工学）の学位を授与します。

(1)知識・理解

- ・化学と機械工学の広範囲な知識を有し、身の回りの生活や地球環境の改善に適切に応用する能力を備えている。【DP-U-1-1】

- ・「バイオ化学コース」では、生物に作用する薬や有害物質などの食品・健康分野の知識を有し、生態系への影糊などを幅広く考察できる能力を備えている。【DP-U-1-2】

- ・「エコ化学コース」では、大気・水の浄化や創・蓄エネルギーのための機能性材料の開発ができる能力を有している。【DP-U-1-3】

- ・「エネルギー機械コース」では、環境への負荷や安全性に配慮したエネルギーの有効活用技術や、生活環境を改善する機器の開発、設計、製造ができる能力を有している。

【DP-U-1-4】

(2)汎用的技能

- ・技術の伝達やグループ作業に必要な文章力とコミュニケーション力とを有している。

【DP-U-2-1】

- ・科学的な思考で判断決断し、粘り強い意志で行動し、問題解決に取り組める。【DP-U-2-2】

(3)態度・志向性

- ・知識や技術を用いて、倫理観と責任感を持って、社会の発展のために行動する。【DP-U-3-1】

- ・最新科学技術の獲得とその応用のための研鑽を続ける。【DP-U-3-2】

(4)総合的な学習経験と創造的思考力

- ・新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。【DP-U-4-1】

○建築学科 ディプロマ・ポリシー

建築学科は、次の能力を有すると認めた学生に学士（工学）の学位を授与します。

(1)知識・理解

- ・人と社会を理解し、自然に関する科学的知識と建築に関する基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用する能力を備えていること。

【DP-C-1-1】

(2)汎用的技能

- ・建築に関する知識に加えて、IT 技術や ICT 技術を活用し、効率良く問題解決に取り組むことができる。【DP-C-2-1】

(3)態度・志向性

- ・獲得した技術を社会で正しく使用する倫理観と責任感を有すること。【DP-C-3-1】

- ・個性を發揮しながらも他人と協調して、自らの役割を、責任を持って果たし、社会に貢献できる能力を有すること。【DP-C-3-2】

- ・自らに誇りを持ち、心豊かな生活を営む価値観を有すること。【DP-C-3-3】

(4)総合的な学習経験と創造的思考力

- ・新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。【DP-C-4-1】

◎情報通信工学部 ディプロマ・ポリシー

情報通信工学部では、各学科における所定の単位を修得し、情報通信工学分野のスペシャリストとして社会に貢献できる以下のような能力をもった者に「学士(情報工学・工学)」の学位を授与します。

- (1) 情報通信工学の基礎知識と高度情報化社会で活躍できる情報収集能力、問題分析能力。
- (2) 実践を通じた問題解決力、高度な情報通信技術者としてのコミュニケーション能力。
- (3) 多様化する社会からのニーズに対応できる自律的かつ意欲的なキャリア形成を目指した総合的能力。

○情報工学科 ディプロマ・ポリシー

情報工学科では、数理的な知識体系に基づき、人間の活動に不可欠な「情報」を扱うシステムを創り出すための基盤的かつ横断的な知識と技術を身に付け、多様な分野において応用展開できる人材を育成することを目指しています。そのため、次の能力を有すると認めた学生に学士(情報工学)の学位を授与します。

(1) 知識・理解

- ・ 高度な知識や技術を自律的かつ意欲的に学ぶことができる。【DP-P-1-1】

(2) 汎用的技能

- ・ 情報工学の専門的技術者として自他ともに認める存在となる技能を有している。【DP-P-2-1】
- ・ 情報工学を必要とする多様な分野において、将来にわたり活躍できる力を有している。【DP-P-2-2】

(3) 態度・志向性

- ・ 他人と協調しつつ己の責任を全うし、社会に貢献することができる。【DP-P-3-1】
- ・ 大学院進学など、高度なキャリアを自ら進んで形成することができる。【DP-P-3-2】
- ・ 先進的で自由な発想に基づき、新たな価値を創出することができる。【DP-P-3-3】

(4) 総合的な学習経験と創造的思考力

- ・ 新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。【DP-P-4-1】

○通信工学科 ディプロマ・ポリシー

通信工学科は、次の能力を有すると認めた学生に学士(工学)の学位を授与します。

(1) 知識・理解

- ・ 通信工学分野における基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用する能力を備えている。【DP-F-1-1】

(2) 汎用的技能

- ・ 技術の伝達やグループ作業に必要な文章力とコミュニケーション力とを有している。【DP-F-2-1】
- ・ 科学的な思考力で判断と決断を行い、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組める。【DP-F-2-2】

(3) 態度・志向性

- ・ 知識や技術を用いて、社会の発展のために貢献できる。【DP-F-3-1】
- ・ 獲得した技術を社会で正しく使用する倫理観と責任感を有している。【DP-F-3-2】
- ・ 最新科学技術の獲得とその応用のための研鑽を続けられる。【DP-F-3-3】

(4) 総合的な学習経験と創造的思考力

- ・ 新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。【DP-F-4-1】

◎医療福祉工学部（医療健康科学部に2020年度より名称変更） ディプロマ・ポリシー
医療福祉工学部では、学科ごとの教育課程を経て、以下の知識や能力を修得することが求められています。所定の単位を修めた学生には、各学科で定める分野における学士の学位を授与します。

(1) 人間性・科学性、国際性、倫理観を有し、高齢社会や地球環境との関わりについて総合的に考える力。

(2) 医学、医療工学、工学・情報学、福祉工学、理学療法学、健康スポーツ科学の幅広い専門知識と実践的能力を有し、常により良いものを追求する問題発見・解決力。

(3) 実験・演習等の実践科目：実際に「手」を動かして与えられた課題に取り組める能力。

(4) 医療福祉工学、理学療法学、健康スポーツ科学の専門分野に関する基礎力を有し、医工学、健康スポーツ科学の融合領域について総合的視野から新しい医療福祉技術を創造する力。

○医療福祉工学科（医療科学科に2020年度より名称変更） ディプロマ・ポリシー
医療福祉工学科は、所定の単位を取得し、次の要件を満たす学生に学士（工学）の学位を授与します。

(1) 知識・理解

・臨床工学技士として医療業務に従事できる基礎的専門知識と応用力を有している。

【DP-L-1-1】

・医学に精通した総合医療エンジニアとしての専門知識・応用力を有している。【DP-L-1-2】

(2) 汎用的技能

・多職種連携ができるコミュニケーション力とドキュメント作成力を有している。

【DP-L-2-1】

・医学・工学の知識に基づいた科学的思考力・判断力を有している。【DP-L-2-2】

(3) 態度・志向性

・チーム医療のスタッフとして医療に貢献しようとする態度を身に付けている。【DP-L-3-1】

・修得した知識や技術を用いて技術開発を目指す意欲と態度を身に付けている。【DP-L-3-2】

・社会的公正性と倫理観を持ち、社会に貢献しようとする態度を身に付けている。

【DP-L-3-3】

(4) 総合的な学習経験と創造的思考力

・知識・技能・態度等を総合的に活用した問題解決能力を有している。【DP-L-4-1】

○理学療法学科 ディプロマ・ポリシー

理学療法学科は、所定の単位を取得し、以下の要件を満たす学生に、学士（理学療法学）の学位を授与します。

(1) 知識・理解

・理学療法士として、保健・医療・福祉の各領域の業務に従事できる専門知識を有している。【DP-Y-1-1】

・専門職（理学療法士）として臨床医学の基礎知識・専門知識を有している。【DP-Y-1-2】

・理学療法士国家試験に合格するレベルの総合的知識を有している。【DP-Y-1-3】

(2) 汎用的技能

・チームワークアプローチを基本とするリハビリテーション医療のスタッフとして、協動的に業務に参加するコミュニケーション能力を身に付けている。【DP-Y-2-1】

・医学のみならず工学的な基礎知識と思考能力を身に付けている。【DP-Y-2-2】

(3) 態度・志向性

・豊かな人間性を持つとともに、責任感、倫理観、奉仕の精神などの医療従事者としての基本的な考え方を備えていること。【DP-Y-3-1】

・対人援助職、社会人としての基本的な態度を身に付けている。【DP-Y-3-2】

・臨床的経験から自身の有する知識・技術を常に向上させようとする積極的な態度を身に付けている。【DP-Y-3-3】

・科学的な思考力を有し、粘り強い意思をもって行動し、問題解決に取り組む力を有して

いる。【DP-Y-3-4】

(4) 総合的な学習経験と創造的思考力

・多様な課題に対して、修得した知識、技術、態度などを総合的に活用し、自ら問題を抽出し、解決できる。【DP-Y-4-1】

○健康スポーツ科学科 ディプロマ・ポリシー

健康スポーツ科学科は、次の能力を有すると認めた学生に学士（健康科学）の学位を授与します。

(1) 知識・理解

・健康スポーツ科学分野における基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用する能力を備えている。【DP-S-1-1】

(2) 汎用的技能

・技術の伝達やグループ作業教育指導に必要な文章力とコミュニケーション力を有している。【DP-S-2-1】

・科学的な思考力で判断と決断を行い、粘り強い意志力で行動し、あきらめることなく問題解決に取り組める。【DP-S-2-2】

(3) 態度・志向性

・知識や技術を用いて、人々の健康維持増進のために貢献できる。【DP-S-3-1】

・獲得した技術を社会で正しく使用する倫理観と責任感を有している。【DP-S-3-2】

・青少年の健康教育においてその知識や技術のみならず、常識的な態度や生活習慣を指導することができる。【DP-S-3-3】

・最新科学技術の獲得とその応用のための研鑽を続けられる。【DP-S-3-4】

(4) 総合的な学習経験と創造的思考力

・新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。【DP-S-4-1】

◎総合情報学部 ディプロマ・ポリシー

総合情報学部では、芸術表現力や科学技術力を基盤とした実学教育を通して、以下の目標を達成し、所定の単位を修めた学生に対して、「学士（情報学）」の学位を授与します。

- (1) 「総合科目」を通して、豊かな人格形成の基盤となる知識と教養を養うとともに、以後の学習方法を修得していること。
- (2) 「講義・演習・実験」を通して、国際社会で通用する専門的知識と技能・技術を身に付けていること。
- (3) 「卒業研究」または「卒業制作」を通して、高度の専門的実践力を身に付けていること。

○デジタルゲーム学科 ディプロマ・ポリシー

デジタルゲーム学科は、次の能力を有すると認めた学生に学士（情報学）の学位を授与します。

- (1) 知識・理解
 - ・デジタルゲームを主軸としたエンタテインメントコンテンツ分野の基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用する能力を備えている。【DP-W-1-1】
- (2) 汎用的技能
 - ・技術の伝達やグループ作業に必要な文章力とコミュニケーション力を有している。【DP-W-2-1】
 - ・科学的な思考力で判断と決断を行い、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組める。【DP-W-2-2】
- (3) 態度・志向性
 - ・知識や技術を用いて、社会の発展のために貢献できる。【DP-W-3-1】
 - ・獲得した技術を社会で正しく使用する倫理観と責任感を有している。【DP-W-3-2】
 - ・最新科学技術の獲得とその応用のため研鑽を続けられる。【DP-W-3-3】
- (4) 総合的な学習経験と創造的思考力
 - ・新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。【DP-W-4-1】

○ゲーム&メディア学科 ディプロマ・ポリシー

ゲーム&メディア学科は、次の能力を有すると認めた学生に学士の学位を授与します。

- (1) 知識・理解
 - ・デジタルゲームとエンタテインメントコンテンツ分野における基礎的な専門知識を包括的に有し、それらを適切に応用する能力を備えている。【DP-B-1-1】
- (2) 汎用的技能
 - ・技術の伝達やグループ作業に必要な文章力とコミュニケーション力を有している。【DP-B-2-1】
 - ・科学的な思考力で判断決断し、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組める。【DP-B-2-2】
- (3) 態度・志向性
 - ・知識や技術を用いて、社会の発展のために貢献できる。【DP-B-3-1】
 - ・獲得した技術を社会で正しく使用する倫理観と責任感を有している。【DP-B-3-2】
 - ・最新科学技術の獲得とその応用のため研鑽を続けられる。【DP-B-3-3】
- (4) 総合的な学習経験と創造的思考力
 - ・新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。【DP-B-4-1】

○情報学科 ディプロマ・ポリシー

情報学科では、情報学の知識とそれらを活用する実践力、種々の問題を解決するためのエンジニアデザイン能力を身に付け、所定の単位を修得することにより本学科の教育目標を達成したとみなし学士（情報学）の学位を授与します。

- (1) 知識・理解

- ・情報学の基礎知識とそれを応用し実践する能力を有する。【DP-T-1-1】
- (2) 汎用的技能
 - ・IT 技術者に必要なコミュニケーション及びプレゼンテーション能力を有する。【DP-T-2-1】
- (3) 態度・志向性
 - ・IT 技術者としての職業倫理及び心構えを身に付け社会に貢献できる。【DP-T-3-1】
- (4) 総合的な学習経験と創造的思考力
 - ・種々の問題を解決するためのエンジニアデザイン能力を有する。【DP-T-4-1】

◎金融経済学部 ディプロマ・ポリシー

○資産運用学科 ディプロマ・ポリシー

資産運用学科では、厳格な成績評価に基づく取得単位上の卒業要件を満たし、以下の能力を修得した者に卒業を認め、学士（ファイナンス）の学位を授与します。

- (1) 知識・理解
 - ・金融や資本市場、資産運用、簿記・会計、ビジネス IT、その他関連分野における基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用する能力を備えている。【DP-A-1-1】
- (2) 汎用的技能
 - ・専門的な知見の伝達やグループ作業に必要な文章力とコミュニケーション力を有している。【DP-A-2-1】
 - ・科学的な思考力で判断や決断をし、粘り強い意志力で行動をし、問題解決のプランを提起したり、実際に問題解決に取り組むことができる。【DP-A-2-2】
- (3) 態度・志向性
 - ・獲得した知識や技術を用いて、社会の発展のために貢献できる。【DP-A-3-1】
 - ・獲得した知識や技術を社会で正しく使用する倫理観と責任感を有している。【DP-A-3-2】
 - ・最新の学術知識の獲得とその応用のための研鑽を続けられる。【DP-A-3-3】
- (4) 総合的な学習経験と創造的思考力
 - ・新たな課題に対して、カリキュラム・ポリシーに基づき獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。【DP-A-4-1】
 - ・課題解決のための計画策定にあたっては、従来の知見や歴史的な経験を踏まえるだけでなく、創造的な思考力を駆使することができる。【DP-A-4-2】

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学 HP にて公表
<https://www.osakac.ac.jp/about/policy/pdf/policy.pdf> 及び入学時に冊子「教育基本三方針」を配付）

（概要）

大阪電気通信大学 カリキュラム・ポリシー

大阪電気通信大学では、時代のニーズである ICT（Information and Communication Technology）を共通の基盤として、一人ひとりの学生がそれぞれの専門的な人間力を培い、社会で役立つ人材として成長することを目指しています。そのために、各学部・学科において実践的な実学教育のカリキュラム体系を構築し、個々の学生が主体的にかつ計画的に学び、実際に社会で活用できる能力を身に付けていくことを教育方針の基本としています。その学修効果を高めて、学修した知識や技能を実質化していくために、実学の学びの課程を、多少意識されたキーワードを用いて、次の 4 つの OECU*ステップ：ときめき（Opportunity）→ 実践（Experience）→ 感動（Capability）→ 発展（Utility）に分類しています。それをガイドラインとして、主体的にかつ楽しみながら学修を進めていけるよう、各学科の教育課程の流れを図式化したカリキュラム・マップで表現しています。

まず、入学の機会（Opportunity）を得た段階で、各学科の導入教育や入門講座などによって、将来こんなことや、あんなこともできるという「ときめき」を覚えてもらいます。次に、基礎専門科目と演習、実験・実習などによって、各学科で学んでいく専門の基礎の部分を「実践」（Experience）しながら学修します。2 年次から 3 年次へと、専門科目の学修を深めていく段階では、ますます実学の有効性（Capability）を感じ取って、より大きな「感動」を覚えるようになります。最終学年では、修得した知識や技能を活用しながら、主に卒業研究やゼミナールを通して学びを「発展」させ、その活用性（Utility）を体験していきます。このような専門教育の流れに、人文社会系の総合科目や語学、キャリア科目を体系的に組み合わせて学修していくことにより、人間力やコミュニケーション能力を総合的に培っていくと同時に、社会で活躍していく自分の将来像を思い描くことができるキャリアデザインの能力も養っていきます。

また、本学では実学学修の一環として国家資格などの取得を奨励しており、受験に向けた学習支援を行っています。

* OECU は本学の英文名（Osaka Electro-Communication University）の頭字語です。

◎工学部 カリキュラム・ポリシー

工学部では、工学の幅広い専門知識と基礎力を身に付ける実学教育を基盤としています。そのために、以下のカリキュラムを用意しています。

(1) 初年次教育：キャリア入門、〇〇学科（学科名）入門を 1 年次に配しています。大学教育を受ける体制を整え、学生同士のつながりも深まります。

(2) 基礎専門科目：数学関係科目においては理工系学部・学科に共通な基礎数学の習得を目指して統一的な科目配置を行い、物理関係科目においては専門学科とのつながりを考慮した物理・力学の習得を目指して学部・学科の特色に応じた科目配置をしています。

物理関係では、力学と振動・波動の科目に数学のプレイスメントテストと高校「物理」の履修状況を考慮した習熟度クラスを設けて、無理なく学びながら習熟度アップを目指します。必要に応じて再履修クラスを設けるなど、繰り返し学習する環境を提供し、基礎力の確実な習熟を目指します。

(3) 総合科目・語学：人間形成に必要な総合科目と国際化に必須の英語は、1, 2, 3 年次いずれでも履修できるようにしてあり、学生の成長に応じてステップアップできます。

(4) 専門科目：各学科の基幹の専門科目と advanced な科目を明確にし、学生の到達目標に応じて選択できます。

(5) キャリア科目：キャリア支援講座を各学年に配し、インターンシップにも取り組んでい

ます。

(6) プレゼミ：3年次後期でプレゼミを行い、4年次の卒業研究にスムーズにつなげていきます。

(7) 卒業研究：卒業研究はそれまでの学習の集大成ととらえ、問題解決能力やコミュニケーション能力が最大限発揮できるように、研究室に配属して個別指導を行っています。

そのほか、e-learning、TA (Teaching Assistant) 制度の活用や、実験・実習科目での企業退職熟練技術者による細やかで実践的な指導を行っています。また、各学科で部分的にクォーター制を導入して、集中学習による学修効果の向上を図っています。

○電気電子工学科 カリキュラム・ポリシー

電気電子工学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1) 獲得すべき力

- ・友人、同僚、上司と正面から向き合う「人間力」【CP-E-1-1】
- ・電気電子工学分野に関する「技術力」【CP-E-1-2】
- ・自分と異なる他者の意見をも『聴く』ことができる双方向の「コミュニケーション力」【CP-E-1-3】
- ・電気電子工学分野の全体にわたる基礎的な事項の概要を説明できる「知識・理解力」【CP-E-1-4】

(2) 学修内容

・初年次教育

大学では、高校までの授業と異なり、主体的な学習が求められます。このため電気電子工学入門などで大学の学習に必要な能力を育成します。電気電子工学分野のイメージ獲得のための教育（電気電子工学入門、工学基礎実験）とこの分野の専門科目を学ぶための基礎学力の養成（数学、物理、電磁気学、電気回路、情報工学）に重点をおいた教育を行います。【CP-E-2-1】

・教養教育

将来に電気電子工学分野で活動する人間としての基礎力を身に付けることが必要です。このため、総合科目では、よりよい暮らしを願い、よりよい社会を築いていこうとするすべての人々の願いに応えることのできる基本的知識（人間・社会そして自然に関する基本的知識）を教育します。また、異なった文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。

外国語群の英語においては、プレイスメントテストを実施し、習熟度に基づくクラス編成を行い、指導します。4技能（聞く・話す・読む・書く）全般の教育を目指しますが、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の実践を行うことで電気電子工学分野の文献を読むことができる力を養います。【CP-E-2-2】

・専門教育

2年次では、「電気・電子回路」をベースとして、「電子・光デバイス」、「エネルギー・電気応用」、「計測制御」、「情報」の各専門分野の基礎教育を行います。【CP-E-2-3】

3年次では、2年次で学んだ専門分野をより深く学ぶと共に、それらの応用領域の教育を拡充していきます。企業連携講座などの企業技術者による技術講義とインターンシップにより、大学での学びと実社会とのつながりをより具体的に体験します。これらにより、卒業後にむけた学びの姿勢の強化を図るとともに、企業におけるグループワークおよびコミュニケーションの重要性を理解します。【CP-E-2-4】

4年次では、卒業研究により、更に専門を深めると共に、新しい課題に取り組む際の手法を体得します。「環境と人にやさしいテクノロジー」を実現させるという理念に基づいて、調査、計画立案、計画実行・調整、報告などの一連の作業を、包括的な指示のもとで自ら進めていくことを体験し、主体的な行動力を身に付けます。また、より高度な技術や情報を自ら進んで積極的に獲得する習慣を身に付けます。【CP-E-2-5】

・キャリア教育

キャリア形成群を設け、初年次のキャリア入門、キャリア概論、キャリア設計と入学時から学修の動機付けを行うとともに段階的に自身のキャリアを多角的に考え、社会における貢献を具体的にイメージできるように指導します。【CP-E-2-6】

(3)教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール OECU MyPage に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の達成度を確認します。また、記載内容に対して、グループ担任がコメントを返します。【CP-E-3-1】

・主要な科目においてクォーター制を導入し、四半期に同じ科目を週 2 回集中して受講することで、学修効果を高めます(カリキュラム・マップ中で Q マークの科目)。【CP-E-3-2】

・基礎を確実に身に付けるようにオフィスアワーなどの講義外個別学習支援を実施します。【CP-E-3-3】

・多くの科目で演習を取り入れることによって、より具体的な事例で理解を深めます。特に、電気電子回路は本学科の基幹科目であり、徹底した演習により実践的な能力を身に付けます。【CP-E-3-4】

・実験科目を通して、電気電子工学分野のモノづくりを理解すると共に、主体的行動とグループ作業における協調性・責任感を身に付けます。

【CP-E-3-5】

(4)学修成果の評価

・修学要綱に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。【CP-E-4-1】

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを OECU MyPage 上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位修得状況も OECU MyPage 上で提示します。【CP-E-4-2】

・学修過程を具体的に把握するためアンケート調査による点検を学期毎に実施し、教員との面談を通じて以降の学習計画を的確に立案します。

【CP-E-4-3】

・専門科目別に成績優秀者を表彰し、幅広い電気電子工学分野の中でも、得意な分野の重点的な学修を奨励します。【CP-E-4-4】

・卒業研究発表会を学科全体で実施し、研究内容だけでなく、文章力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力が身に付いているか評価します。【CP-E-4-5】

(5)進路

電気電子工学科の卒業生は、電子機器、電子デバイス分野、情報システム分野、電気制御分野、電気設備、エネルギー関連分野での研究開発、管理・保全・販売などに関わる技術者、工業・技術分野での教育者、大学院への進学などの進路を選択しています。【CP-E-5-1】

○電子機械工学科 カリキュラム・ポリシー

電子機械工学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1)獲得すべき力

・友人、同僚、上司と正面から向き合う「人間力」【CP-H-1-1】

・機械、電気・電子、計測・制御、情報・コンピュータの分野に関する「技術力」【CP-H-1-2】

・自分と異なる他者の意見をも『聴く』ことができる双方向の「コミュニケーション力」【CP-H-1-3】

・機械、電気・電子、計測・制御、情報・コンピュータの分野の全体にわたる基礎的な事項を説明できる「知識・理解力」【CP-H-1-4】

(2)学修内容

・初年次教育

大学では、高校までの授業と異なり、主体的な学習が求められます。このため共通専門科目などで大学の学習に必要な能力を育成します。【CP-H-2-1】

・教養教育

総合科目では、よりよい暮らしを願い、よりよい社会を築いていこうとするすべての人々の願いに応えることのできる基本的知識（人間・社会そして自然に関する基本的知識）を教育します。また、異なった文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。

外国語群の英語においては、プレイスメントテストを実施し、習熟度に基づくクラス編成を行い、指導します。4技能（聞く・話す・読む・書く）全般の教育を目指しますが、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の実践を行います。【CP-H-2-2】

・専門教育

基礎専門科目と専門科目とに分類し、「メカトロニクス」を理解するために必要な機械、電気・電子、計測・制御、情報・コンピュータの基礎学力を身に付けます。機械系と電気系の類似性を理解し、それらを情報技術と制御技術により応用・発展させる、創造性に富んだ実践的能力を身に付けます。勉学ならびに問題解決の方法を学びます。

実践的な「モノづくり」の手法を学びます。【CP-H-2-3】

・キャリア教育

日本語表現を含めたコミュニケーション能力の向上を目指します。また、社会人になるための基礎知識、マナーを習得します。【CP-H-2-4】

(3)教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール OECU MyPage に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の達成度を確認します。また、記載内容に対して、グループ担任がコメントを返します。【CP-H-3-1】

(4)学修成果の評価

・修学要綱に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。【CP-H-4-1】

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを OECU MyPage 上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位修得状況も OECU MyPage 上で提示します。【CP-H-4-2】

・学修効果を具体的に把握するために、成績配布時にグループ担任が学生と面談を実施します。【CP-H-4-3】

(5)進路

電子機械工学科の卒業生は、機械分野、電気・電子分野、及びそれらを融合したメカトロニクス分野、ロボット関連分野を始め、プラント建設、食品関連分野などの幅広いモノづくり産業での研究・開発、管理・保全・販売などに係る技術者、高校の工業・技術科の教員、高校・中学の数学の教員、大学院への進学などの進路を選択しています。【CP-H-5-1】

○機械工学科 カリキュラム・ポリシー

機械工学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1)獲得すべき力

・友人、同僚、上司と正面から向き合う「人間力」【CP-J-1-1】

・機械工学分野に関する「技術力（基礎力、応用力）」【CP-J-1-2】

・自分の意見を『伝え』、異なる他者の意見を『聴く』ことができる双方向の「コミュニケーション力」【CP-J-1-3】

・機械工学分野の全体にわたる基礎的な「知識・理解力」に基づき、事項の概要を説明し実践できる「応用力」【CP-J-1-4】

(2)学修内容

・初年次教育

大学では、高校までの授業と異なり、主体的な学習が求められます。このため、数学、力学を学ぶ基礎専門科目では機械工学を学習するために必要な能力を育成します。また、機

械工学入門ではこれから学ぶ機械工学の概要を学ぶとともに、実験・実習を通して技術者として必要なコミュニケーション力の基礎を身に付けます。さらに、卒業後の自らのキャリアを考えるためにキャリア科目を学びます。【CP-J-2-1】

・教養教育

機械工学は、よりよい社会、安全で便利な暮らしを実現するために存在します。また、これからの機械工学は自然と協調、共存できるものでなければなりません。専門教育で学んだ知識を社会で活用するためには、人間、社会そして自然に関する知識を持っていることが必要になります。また、異なった言語・文化を持つ国・地域の人々とも交流できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる力も必要です。総合科目ではこれらの「人間・社会・自然に関する基礎的な知識」、「異なった言語・文化を持つ人々と交流できる力」、「健康で力強く生きていくことのできる方法」を学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群の科目を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。【CP-J-2-2】

・専門教育

基礎専門科目と専門科目とに分類し、基礎専門科目ではモノづくりに求められる数学や力学を学びます。専門科目では機械工学の基盤となる4力学（材料力学、流体力学、熱力学、機械力学）や設計、製図、機械加工などを学びます。また、基盤の専門科目に併設された演習において、自ら問題を解くことにより、確実な知識の理解と応用力を高めます。また、機械工学実験では技術習得、報告書の作成法など、実践面を学びます。

機械創成工学実習、発展創成実習では、グループ開発演習で計画を立て、実際に機械を製作する過程を経験することにより、モノづくりの方法を学ぶとともに、自らの役割と責任を実感し、社会で必要な協調性を獲得します。また、工学倫理の科目では、技術者が持つべき倫理観を理解し、社会貢献の意義を学びます。

卒業研究では、卒業研究を通して、自ら計画的に課題に取り組み、問題を解決するための手法を学びます。また、卒業論文の作成、研究発表を通じて自分の考えを他者に伝えるために必要な文章作成力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を高めます。

【CP-J-2-3】

・キャリア教育

キャリア形成群を設け、「キャリア入門」、「キャリア設計」、「インターンシップ」などの科目を通して、機械工学と社会のかかわりについて学ぶとともに、自らの将来設計をするために必要な事柄を学びます。また、社会人として必要な知識、マナーを学びます。

【CP-J-2-4】

(3)教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール OECU MyPage に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の達成度を確認します。また、記載内容に対して、グループ担任がコメントを返します。【CP-J-3-1】

(4)学修成果の評価

・修学要綱に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。【CP-J-4-1】

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを OECU MyPage 上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位修得状況も OECU MyPage 上で提示します。【CP-J-4-2】

(5)進路

機械工学科の卒業生は、機械、電気などの基盤産業全般での研究開発、製造、管理、保全、販売などに関わる技術者、工業・技術分野での教育者、大学院への進学などの進路を選択しています。【CP-J-5-1】

○基礎理工学科 カリキュラム・ポリシー

基礎理工学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1)獲得すべき力

- ・友人、同僚、上司と正面から向き合う「人間力」【CP-N-1-1】
- ・理工学分野全般に渡る基礎的な「技術力」【CP-N-1-2】
- ・自分と異なる他者の意見をも『聴く』ことができる双方向の「コミュニケーション力」【CP-N-1-3】
- ・基盤科学全体にわたる基礎的な事項の概要を説明できる「知識・理解力」【CP-N-1-4】
- ・自然科学の具体的な事象及び法則について理解し、説明できる「知識・理解力」【CP-N-1-5】

(2)学修内容

・初年次教育

大学では、高校までの授業と異なり、主体的な学習が求められます。このため基礎専門科目などで大学の学習に必要な能力を育成します。このうち、数学および物理の基礎科目では、高校での学びに基づいた習熟度別クラス編成を行います。また、基礎理工学科で学ぶ意義を明確に将来進むべき道を見据えるためのキャリア形成科目を配置するとともに、工学の基本であるモノづくりを实践する科目も配置しています。

【CP-N-2-1】

・教養教育

総合科目では、よりよい暮らしを願い、よりよい社会を築いていこうとするすべての人々の願いに応えることのできる基本的知識（人間・社会そして自然に関する基本的知識）を教育します。また、異なった文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。【CP-N-2-2】

外国語群の英語においては、プレイスメントテストを実施し、習熟度に基づくクラス編成を行い、指導します。4技能（聞く・話す・読む・書く）全般の教育を目指しますが、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の实践を行います。

・専門教育

基礎理工学科では、総合科目の学修で獲得する社会で生きるための知識と幅広い視野を活かした専門教育を実施し、科学的知識と技能で人と社会に貢献するグローバルな人材を育成します。

専門教育は、基礎専門科目と専門科目とに分類し、それぞれにおいて以下のような方針で教育課程を定めています。

基礎専門科目のうち、数学関係科目においては理工系学部・学科に共通な基礎数学の習得を目指して統一的な科目配置を行い、物理関係科目においては専門学科とのつながりを考慮した物理・力学の習得を目指して学科の特色に応じた科目配置をしています。

数学関係では、特に1年次における解析関係科目を重要視しており、新入生に対するプレイスメントテストなどの結果を考慮した三段階の習熟度別クラスを設定してきめ細かい対応を行っています。さらに、基礎的な科目については再履修クラスを設けて「わからないところは何度でも繰り返し学習する」精神で、習得困難な学生に対応しています。

物理関係では、力学と振動・波動の科目に上記プレイスメントテストと高校「物理」の履修状況を考慮した習熟度別クラスを設けて、無理なく学びながら習熟度アップを目指します。後期に再履修クラスを設けるなど、繰り返し学習する環境を提供し、基礎力向上を図ります。また物理学・実験では、物理現象に直接触れて理解を深め、工学諸分野を専攻するのに不可欠な基本的な実験操作や測定値処理法の習得を目指します。

専門科目では、基礎理工学の素養となる、数学系・化学系・物理系の科目を開講しこれらを選択必修として、これらの3系列をバランスよく習得できるようにしています。また、講義で学んだ知見を、2年次、3年次に配当されている実験や演習を通じて実践的な技能として身に付けます。

数学系では、基礎専門科目を土台とし、幅広い数学的知識と数学的思考力を獲得できるよう専門科目を配置しています。他分野への応用上重要な解析系科目、確率・統計科目を中心に、代数系、幾何系、計算機系科目を設けています。

化学系では、高等学校における学習を大学における専門教育に繋げるような科目を低学年次に配置し、高学年次でより専門的な科目を選択して履修します。

物理系では、電気回路や電磁気など先端技術を読み解くための基礎科目から、物質科学や量子力学など今後発展することが期待される分野への応用を見据えた科目を設けています。

基礎理工学ゼミナールでは、講義や実験・演習で身に付けた知識や技術を実際の問題に適用して解決していくためのパフォーマンス課題を設定し、各自のコンピテンシーを引き出し高めるためのプロジェクト学習型アクティブラーニングを行います。ここではまた、実社会に進じて年齢・性別などの多様性を持つ混合グループを形成し課題に取り組むことで、グループワークやコミュニケーション能力の醸成も図ります。これらの専門科目と総合科目における人間・社会に関する幅広い知識から科学的倫理観を育成します。【CP-N-2-3】

・キャリア教育

キャリア形成群を設け、大学入学時と卒業後の将来との連続性に配慮した体系的なキャリア教育を実践します。初年次では大学及び基礎理工学科で学ぶ意義やキャリア（経験）とは何かを学びます。続いて主体的課題解決・表現・コミュニケーションなど実学へのキャリア形成法を獲得し、実際に社会に出るための具体的活動のスキルアップを図ります。

【CP-N-2-4】

(3)教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール OECU MyPage に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の達成度を確認します。また、記載内容に対して、グループ担任がコメントを返します。【CP-N-3-1】

・学生が自ら学ぶ姿勢を重視し、個々の学修状況に応じた教育・指導環境を提供します。

【CP-N-3-2】

・アクティブ・ラーニングや e-learning を取り入れ、自主的な学習を身に付けるとともに、その成果をプレゼンテーションする能力の育成も行います。【CP-N-3-3】

(4)学修成果の評価

・修学要綱に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。【CP-N-4-1】

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを OECU MyPage 上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位修得状況も OECU MyPage 上で提示します。【CP-N-4-2】

・学修成果を具体的に把握するためグループ担任による面談を定期的実施します。同時に、学修成果に基づいた履修指導も行います。【CP-N-4-3】

(5)進路

基礎理工学科の卒業生は、学修により身に付けた基礎知識とそれに基づいた問題発見と解決能力、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を最大限生かすことができる広範な工学分野の技術者、数学・理科の教員（中学、高校）、教育関連分野の専門スタッフ、大学院への進学などの進路を選択しています。【CP-N-5-1】

○環境科学科 カリキュラム・ポリシー

環境科学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1)獲得すべき力

・友人、同僚、上司と正面から向き合う「人間力」【CP-U-1-1】

・理工学分野全般に渡る基礎的な「技術力」【CP-U-1-2】

・公共心、コミュニケーション力、リーダーシップなどの「対人調整力」【CP-U-1-3】

・生活環境科学（生活や地球環境に関する科学）全般にわたる基礎的な「知識力」【CP-U-1-4】

・生活環境科学を構成する『バイオ化学分野』、『エコ化学分野』、『エネルギー機械分野』において、上記基礎的知識を高度に発展・統合させる「展開力」【CP-U-1-5】

(2)学修内容

・初年次教育

大学では、高校までの授業と異なり、主体的な学習が求められます。初年次では、環境科

学への動機付け、イメージ獲得のための教育（必修科目：地球環境の化学、地球環境の物理、環境社会学、環境科学入門）とこの分野の専門科目を学ぶための基礎学力の養成と基礎的な実験科目

（生活化学実験、物理学実験）に重点をおいた教育を行います。これによって、専門科目への移行を容易にする理数系科目を強化します。また、学生全員が基礎を身に付けるように、グループ担任がキャリア入門等で学修支援を実施します。

数学および物理の基礎科目では、高校での学びに基づいた習熟度別クラス編成を行います。

【CP-U-2-1】

・教養教育

総合科目は、よりよい暮らしを願い、よりよい社会を築いていこうとするすべての人々の願いに応えることのできる基本的知識（人間・社会そして自然に関する基本的知識）を教育します。また、異なった文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。

外国語群の英語においては、プレイスメントテストを行い、習熟度に基づくクラス編成を行い、指導します。4技能（聞く・話す・読む・書く）全般の教育を目指しますが、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の実践を行います。

以上の教養教育は、人間社会と自然環境の摂理の理解、帰属意識、健康管理および外国語を含む基本的なコミュニケーションの4技能など向上させ、後に続く専門教育で学ぶ工学的技術や知識が必要な背景を理解することを助け、それによって最新技術の習得や深い知識を獲得することを促進します。また、プロジェクト型の学びや卒業研究等にて、学内外の関係者と共同作業を行う上での良好な人間関係の構築、成果を集約して発信する技術修得の素地を作ります。【CP-U-2-2】

・専門教育

2年次では、主として専門の基礎教育を行っています。環境科学科では、2年次後期から学生の希望と成績により、3コース（バイオ化学、エコ化学、エネルギー機械）に分かれるので、そのコース分けを考えて専門科目・実験科目の履修をするように指導します。しかしながら、視野を広げるためには様々な分野の知識・体験が必要なので、あまりコースに捉われすぎないように指導します。

3年次では、コース分けした専門分野の基礎をより深く学ぶとともに、それらの応用領域の教育を拡充し、より深い専門分野の学修、および卒業後の学ぶ姿勢の強化を図っています。

4年次では、卒業研究により、特定の分野の専門性を深めるとともに、新しい課題に取り組む場合の手法を体得します。身の回りの生活や地球環境問題についての正しい知識の習得と環境意識の向上、およびそれらを解決する手段としての知識を習得させることを目指して、包括的な指示の下で自ら進めていくことを体験し、主体的な行動力を身に付けます。年次ごとの学修のほかに環境科学科では、座学中心の一方通行の授業から、年次を超えたグループによるプロジェクト型の学びを提供しています。これにより、目的・目標の設定、問題の解決などの実社会で行われているプロジェクトの遂行手法を体得します。さらに、カリキュラム以外でも、環境科学科の教員有志による、公害防止管理者試験、エネルギー管理士、気象予報士、eco検定などの資格支援講座を開催して、就職や将来に役立てられる資格取得の支援を行っています。【CP-U-2-3】

・キャリア教育

1年次から3年次までの間に、キャリア入門、キャリア概論、キャリアデザイン、キャリア設計、インターンシップとキャリア形成群を設けています。これらは、教養教育の強化的な位置付けとして設け、化学と機械技術をもとに環境問題を新たなコンセプトで考え、社会に貢献できる技術者として育成します。【CP-U-2-4】

(3)教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール OECU MyPage に目

標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の達成度を確認します。また、記載内容に対して、グループ担任がコメントを返します。【CP-U-3-1】

(4) 学修成果の評価

・修学要綱に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。【CP-U-4-1】

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを OECU MyPage 上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位修得状況も OECU MyPage 上で提示します。【CP-U-4-2】

・学修成果を具体的に把握するためグループ担任による面談を定期的実施します。同時に、学修成果に基づいた履修指導も行います。【CP-U-4-3】

(5) 進路

環境科学科の学生は、製造業、設備・サービス業分野の技術者、教員、公務員、大学院への進学などの進路を選択しています。【CP-U-5-1】

○建築学科 カリキュラム・ポリシー

建築学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1) 獲得すべき力

・建築を設計、建設するために必要な基礎的専門知識と技術を着実に身につけます。

【CP-C-1-1】

・環境、エネルギー、情報といった建築に関連する分野の知識を身につけます。【DP-C-1-2】

・コンピュータを駆使して、CAD(Computer Aided Design)により図面を描き、デジタルデザイン技術により図面を実際の建物のようにリアルに描画し、BIM(Building Information Modeling)により、3次元で建物をデザインしながら、そこに様々な建物情報を与えることで、設計、施工、維持管理を最適化する技術を身につけます。【CP-C-1-3】

・自ら進んで学び、人々と積極的に交流できる力を磨きます。【CP-C-1-4】

・建築物の社会的影射を理解し、技術者としての倫理観と責任感を身につけます。

【CP-C-1-5】

・独創的な仕事を遂行するため、個性を活かし、アイデアを出す力を磨きます。【CP-C-1-6】

・自分の意見を説明し、かつ他人の意見を聞き、最適な建物・まちづくりができるコミュニケーション力を身に付けます。【CP-C-1-7】

(2) 学修内容

建築学科では、持続可能社会を実現する「人と環境に配慮した建物・まちづくり」をモットーとして、人に対しては、安全かつ快適な空間を提供し、環境に対しては、自然との循環型共生や省エネルギーで環境負荷の低い建築物や都市を計画、設計、施工できる建築家や建築技術者を養成する教育を実施します。また、コンピュータを活用して、建築設計・構造・設備などの実務に携われる技術者を養成する教育を実施します。

さらには、広く京阪エリアを対象に地域の方々と積極的に交流し、住みやすいまちづくりをめざしたアクティブ・ラーニングを教育の一環とし、コミュニケーション能力、チームで働く能力などの社会人として必要な基礎能力(社会人基礎力)を確実に身につけさせ、社会に貢献できる人材を輩出できる教育を実施します。

・初年次教育

建築分野の専門科目を学ぶための数学、物理、電気、情報などの基礎学力を身につけるための教育を行います。さらには、建築学の導入教育として「建築学入門」に重点をおいた教育を行います。【CP-C-2-1】

・教養教育

将来に建築分野で活動する人間としての基礎力を身に付けることが必要です。このため、総合科目では、よりよい暮らしを願い、よりよい社会を築いていこうとするすべての人々の願いに応えることのできる基本的知識(人間・社会そして自然に関する基本的知識)を教

育します。また、異なった文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。【CP-C-2-2】

外国語群の英語においては、プレイスメントテストを実施し、習熟度に基づくクラス編成を行い、指導します。4技能（聞く・話す・読む・書く）全般の教育を目指しますが、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の実践を行うことで建築分野の文献を読むことができる力を養い

ます。【CP-C-2-3】

・専門教育

(a)設計に必要な製図を、最初は製図板を用いて学び、設計製図の基礎を身につけます。次に、本学の得意分野であるIT技術を活かして、CADを用いて図面を描きます。さらに、最先端のICT技術であるBIMやデジタルデザインについても学びます。【CP-C-2-4】

(b)一級・二級建築士受験資格に必要な建築設計、建築計画、建築環境工学・建築設備、構造力学・建築構造・建築材料、建築生産・法規について学修します。【CP-C-2-5】

(c)まちづくりプロジェクトのようなアクティブ・ラーニングにより、地域の人々の話を聴き、地域の行事に参加し、地域の方々と一緒にまちづくりを考える力を身につけます。

【CP-C-2-6】

・キャリア教育

キャリア形成群を設け、初年次のキャリア入門、キャリア概論、キャリア設計と入学時から学修の動機付けを行うとともに段階的に自身のキャリアを多角的に考え、社会における貢献を具体的にイメージできるように指導します。【CP-C-2-7】

(3)教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツールOECU MyPageに目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の達成度を確認します。また、記載内容に対して、グループ担任がコメントを返します。【CP-C-3-1】

・基礎を確実に身に付けるようにリメディアル教育の実施やオフィスアワーなどの講義外個別学習支援を実施します。【CP-C-3-2】

・多くの科目で実習を取り入れることによって実践的に学び、技術と知識を深め、さらには主体的行動とグループ作業における協調性・責任感を身に付けます。【CP-C-3-3】

(4)学修成果の評価

・修学要綱に定めるGPAを用いて、修学指導を行います。また、GPAは、学業優秀賞の対象者選抜等に用います。【CP-C-4-1】

・各学期末に、主要な科目の成績を学修効果測定グラフによりOECU MyPage上で提示します。また、学科が定める分野の単位修得状況もOECU MyPage上で提示します。【CP-C-4-2】

・学期毎に教員との面談を実施して、履修指導や学習計画の指導を行います。【CP-C-4-3】

(5)進路

建築学科の卒業生は、建築、構造、設備の設計や施工に携わる建築家及び建築技術者として、建築設計事務所、総合建設会社（ゼネコン）、建築設備会社、住宅メーカーや住宅関連の設備会社へ就職します。また、行政担当者、建築・まちづくりに関するプランナー、コミュニティデザイナー、あるいは、工業・技術分野での教育者などの進路があります。【CP-C-5-1】

◎情報通信工学部 カリキュラム・ポリシー

本学部では、情報通信工学技術を実践的に教育し、情報化社会の発展に貢献できる人材を育成することを目指しています。そのため、情報通信社会を支えるソフトウェア、ハードウェア、ブロードバンド、マルチメディア、インターネットに関する基盤科目、実験科目がバランスよく含まれたカリキュラムに基づいて、実学教育を実行しています。また、各学科で部分的にクォーター制を導入して、集中学習による学修効果の向上を図っています。

(1) 数学関係科目においては理工系学部・学科に共通な基礎数学の習得を目指して統一的な科目配置を行い、物理関係科目においては専門学科とのつながりを考慮した物理・力学の習得を目指して学部・学科の特色に応じた科目配置をしています。物理関係では、力学と振動・波動の科目に数学のプレイスメントテストと高校「物理」の履修状況を考慮した習熟度クラスを設けて、無理なく学びながら習熟度アップを目指します。後期に再履修クラスを設けるなど、繰り返し学習する環境を提供し、基礎力向上を図ります。

(2) 充実したキャリア支援科目は、将来の進路選択をサポートし、幅広い情報通信関連の職業に就けるように作成されています。

(3) ハードウェアとソフトウェアの両面から情報通信工学を体系的に学び、情報通信技術について深く理解することで、近未来における急激な技術の進歩にも柔軟に対応でき、将来の情報通信システムの発展に寄与できる、真の情報通信技術者を育成します。

(4) 情報通信をより高品質で快適に行える新世代ネットワークシステムや、携帯電話などをはじめとした通信の性能を飛躍的に向上させる通信方式など、コンピュータネットワークに関する教育・研究を通じて情報通信の未来を担う人材を育成します。

○情報工学科 カリキュラム・ポリシー

情報工学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1) 獲得すべき力

・友人、同僚、上司と正面から向き合い、よりよい社会を築いていこうとする人々の願いに応えることのできる「人間力」【CP-P-1-1】

・情報工学分野に関する「技術力」【CP-P-1-2】

・自分と異なる他者の意見を聴き、相互理解することができる双方向の「コミュニケーション力」【CP-P-1-3】

・情報工学分野の全体にわたる基礎的な事項の概要を説明できる「知識・理解力」【CP-P-1-4】

(2) 学修内容

・初年次教育

大学では、高校までの授業と異なり、主体的な学習が求められます。初年次では、数理的な知識を基礎に、ハードウェアからソフトウェアに至る基盤的専門知識を体系的に身に付けます。それにより、情報系の資格取得に十分な専門知識を習得し、これらの知識を応用する上で必要となるプログラミング能力およびコンピュータ活用能力を体得します。そのために、コンピュータの本質的な計算能力や工学的応用の仕組みを演習科目、実験科目で実践的に学びます。【CP-P-2-1】

・教養教育

総合科目では、よりよい暮らしを願い、よりよい社会を築いていこうとするすべての人々の願いに応えることのできる基本的知識（人間・社会そして自然に関する基本的知識）を教育します。また、異なった文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。

外国語群の英語においては、プレイスメントテストを実施し、習熟度に基づくクラス編成を行い、指導します。4技能（聞く・話す・読む・書く）全般の教育を目指しますが、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の実践を行います。【CP-P-2-2】

・専門教育

専門教育では、多様な分野にわたる専門科目を学修し、情報工学の豊かな応用力を体得します。2年次後期および3・4年次には、情報工学の幅広い応用分野で活躍できるキャリアの上台形成を目指し、基幹分野となる計算機システム分野、情報ネットワーク分野、知的情報処理分野、統計情報解析分野、情報システム分野、メディア情報工学分野の専門知識を網羅するよう、幅広い科目を学修します。また、1年から3年次までの一貫した情報工学関連の実験・演習活動に取り組むことにより、自律的な学習能力と技術者としてのコミュニケーション能力を体得します。また、4年次には、以上の能力の総合演習として、本格的な研究開発プロジェクトである卒業研究に取り組みます。卒業研究では、具体的な研究プロジェクトに参画し、実践的な問題解決能力、および知的生産活動に不可欠な口頭発表・文章構成の能力を身に付けます。具体的には、卒業後も先進的な技術に対して、自律的な学習を継続できるような応用力、情報収集能力、問題分析能力を獲得します。

【CP-P-2-3】

・キャリア教育

キャリア形成群を設け、初年度からキャリア形成の手助けを行うと同時に、就職活動サポートを行っています。キャリア教育と専門教育とを通して、多様化する社会からのニーズに対応した柔軟なキャリアを形成していく能力を総合的に体得します。【CP-P-2-4】

(3)教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール OECU MyPage に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の達成度を確認します。また、記載内容に対して、グループ担任がコメントを返します。【CP-P-3-1】

(4)学修成果の評価

・修学要綱に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。【CP-P-4-1】

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを OECU MyPage 上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位修得状況も OECU MyPage 上で提示します。【CP-P-4-2】

・学修成果を具体的に把握するためグループ担任による面談を定期的を実施します。同時に、学修成果に基づいた履修指導も行います。【CP-P-4-3】

(5)進路

情報工学科の卒業生には、IT 産業を始めとして、モノづくり産業からサービス産業に至るまで、あらゆる業種における活躍の場があり、コンピュータシステム技術開発者・ネットワーク設計者（サーバ、クラウド、ネットワークなど）、ハードウェア開発者（組み込みシステムなど）、データベース管理者・データ解析者（データバンク、ビジネス提案、カスタマイズなど）、アプリケーション開発者（市販用、業務用、タブレット・スマートフォン用など）として就職する他、工業・情報分野の教育者の道や大学院への進学などの進路を選択しています。【CP-P-5-1】

○通信工学科 カリキュラム・ポリシー

通信工学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1)獲得すべき力

・友人、同僚、上司と正面から向き合う「人間力」【CP-F-1-1】

・通信工学分野に関する「技術力」【CP-F-1-2】

・自分と異なる他者の意見をも「聴く」ことができる双方向のコミュニケーション力【CP-F-1-3】

・通信工学分野の全体にわたる基礎的な事項の概要を説明できる知識・理解力【CP-F-1-4】

・通信工学を支えるハードウェア技術及びソフトウェア技術について理解し、説明できる知識・理解力【CP-F-1-5】

(2)学修内容

・初年次教育

大学では、高校までの授業と異なり、主体的な学習が求められます。このため基礎専門科

目などで大学の学習に必要な能力を育成します。

【CP-F-2-1】

・教養教育

総合科目では、よりよい暮らしを願い、よりよい社会を築いていこうとするすべての人々の願いに応えることのできる基本的知識（人間・社会そして自然に関する基本的知識）を教育します。また、異なった文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。

特に英語においては、プレイスメントテストを実施し、習熟度に基づくクラス編成を行い、指導します。4技能（聞く・話す・読む・書く）全般の教育を目指しますが、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の実践を行います。【CP-F-2-2】

・専門教育

基礎専門科目と専門科目とに分類し、通信工学の基礎から応用分野まで幅広く通信技術を学びます。【CP-F-2-3】

・キャリア教育

キャリア形成群を設け、初年度からキャリア形成の手助けを行うと同時に、就職活動サポートを行っています。【CP-F-2-4】

(3)教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール OECU MyPage に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の振り返りを行います。また、記載内容に対して、グループ担任がコメントを返します。【CP-F-3-1】

・得られた成績について論評を与え、学習方法などの助言をすると同時に半期ごとの目標設定の手助けを行います。【CP-F-3-2】

(4)学修成果の評価

・修学要綱に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。【CP-F-4-1】

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを OECU MyPage 上で提示します。また学科が定めるスキル分野の単位修得状況も OECU MyPage 上で提示します。【CP-F-4-2】

・学修成果を具体的に把握するため、GPA 評点に基づく順位付けを実施します。【CP-F-4-3】

(5)進路

通信工学科の卒業生は、情報通信産業、通信建設業、電気設備・製造業分野の技術者、大学院への進学などの進路を選択しています。【CP-F-5-1】

◎医療福祉工学部（医療健康科学部に2020年度より名称変更）カリキュラム・ポリシー

医療福祉工学部（医療健康科学部に2020年度より名称変更）は、人々の生活の質の向上を目指し、医療、健康、福祉及びリハビリテーションに活用可能な技術の基礎知識及び応用を教授研究し、当該分野で主体的に活躍できる人材を育成することを目的としています。この教育目標を実現させるため、以下のように各学科の教育指針を定めて、主体的に活動できる専門性を持った多様な人材を育成し、豊かな人間性を育み、個性を大切にしながらも協調性やコミュニケーション、礼儀を重んじる良識ある社会人を輩出するように教育課程（カリキュラム）を編成しています。

(1) 医療福祉工学科（医療科学部に2020年度より名称変更）では、安心・安全かつ質の高い医療や健康福祉技術を実現させるために医学と工学・情報学が連携する分野（臨床工学・情報学、福祉工学）について教授研究し、この分野の専門知識を有した技術者や高度医療を推進する臨床工学技士として社会のニーズに応えうる人材を育成・輩出します。

(2) 理学療法学科では、身体機能と基本的動作および日常生活活動を改善するための治療および指導技術について教授研究し、リハビリテーション技術の高度化を推進するなど、当該分野で活躍できる工学的素養を身に付けた理学療法士を育成・輩出します。

(3) 健康スポーツ科学科では、生涯を通じた国民の健康水準を保持・増進し、健康づくりに寄与するため、臨床医学・情報科学などをベースとした健康スポーツ科学について教授研究し、この分野の専門知識を有した技術者や健康づくりを推進する健康運動指導士として活躍できる人材を育成・輩出します。

○医療福祉工学科（医療科学部に2020年度より名称変更）カリキュラム・ポリシー

医療福祉工学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、「臨床工学技士」、「総合医療エンジニア」の進路が選択できるように教育課程を編成しています。

(1) 獲得すべき力

・高度化・多様化する医療技術に対応できる「人間力」と「基礎的知識・医療技術力」

【CP-L-1-1】

・安心・安全な医療を実現するために、安全に対する「高い意識」、「知識・技能」【CP-L-1-2】

・チーム医療の一員として多職種連携ができる双方向の「コミュニケーション力」

【CP-L-1-3】

・総合医療エンジニアとして医療機器・健康機器・生活支援機器の開発に関する「基礎知識」と「技術力」【CP-L-1-4】

(2) 学修内容

・初年次教育

(a) 異文化と相互理解できる力、科学的思想の基盤、人間と生活、語学などの総合科目を配当し、人間性、国際性、倫理観などの社会人基礎力を養います。【CP-L-2-1】

(b) 高度化が進む医療技術や生活支援技術を学び、学修計画を吃て、体験実習により学びのモチベーションを高めます。【CP-L-2-2】

(c) 数学、理科については学生の習熟度に応じたクラスを編成し、安心して学び、基礎力を養います。【CP-L-2-3】

(d) 解剖学、生理学、エレクトロニクス、情報に関する科目を配当し、医学と工学の基礎教育を開始します。【CP-L-2-4】

・教養教育

総合科目では、よりよい暮らしを願い、よりよい社会を築いていこうとするすべての人々の願いに応えることのできる基本的知識（人間・社会そして自然に関する基本的知識）を教育します。また、異なった文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。

外国語群の英語においては、プレイメントテストを実施し、習熟度に基づくクラス編成

を行い、指導します。4 技能（聞く・話す・読む・書く）全般の教育を目指しますが、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の実践を行います。【CP-L-2-5】

・基礎専門教育

(a) 医学概論、生化学、人体の構造及び機能に関する科目を学び、医学的基礎となる知識を修得します。【CP-L-2-6】

(b) 基礎工学の科目と理解を深める実験を行い、医療機器の仕組みや動作の理解に必要な基礎力を養います。【CP-L-2-7】

(c) 医用画像、生体計測に必要な医療情報技術及びシステム工学の基礎的知識を修得します。【CP-L-2-8】

(d) レポートの書き方を実践的にわかりやすく教授し、ドキュメント作成力を養います。【CP-L-2-9】

・専門教育

(a) 内科学、外科学などを体系的に学ぶことで臨床医学に関する専門知識を修得します。【CP-L-2-10】

(b) 医用生体工学や生体機能代行技術学などを学び、医療技術に関する専門知識と技能を養います。【CP-L-2-11】

(c) 電気電子工学、情報学、機械工学を学び、工学・情報技術を医療健康分野に応用する能力を養います。【CP-L-2-12】

(d) ヒト型ロボット製作、生活支援工学などを学び、総合医療エンジニアとしての素養を養います。【CP-L-2-13】

(e) 医用機器安全管理学を配当し、医療安全に対する高い意識、知識・技能を養成します。【CP-L-2-14】

(f) 医療機関で実施する臨床実習では、臨床現場での実践的知識を修得できるように実学教育を行います。【CP-L-2-15】

(g) 卒業研究は学部教育の集大成であり、研究に取り組み、問題解決力、プレゼンテーション力を養います。【CP-L-2-16】

・臨床工学技士国家資格

(a) 厚生労働省指定科目を開講し、理解を深める実験、e-learningにより合格に必要な知識・技能を養います。【CP-L-2-17】

・キャリア教育

(a) アカデミックライティングで理系の作文技術、プレゼンテーション能力を養います。【CP-L-2-18】

(b) プレゼミは、少人数で課題に取り組み、主体的・継続的に学修する能力を高めます。【CP-L-2-19】

(c) ME 技術実力検定試験(第1種、第2種)、医療事務や医療機器情報コミュニケーター(MDIC)などの資格が取得できるように支援します。【CP-L-2-20】

(d) 実務経験豊富な講師によるセミナーを開催して社会人としてのマナー、心構えなどの素養を養います。【CP-L-2-21】

(3) 教育方法

・学習する支援ツール OECU MyPage を利用して、長期的な学修状況を振り返ることができます。【CP-L-3-1】

・臨床工学・健康科学・生活支援工学の技術者としての素養を身に付けるための e-learning システムが利用できます。【CP-L-3-2】

・実験・実習・演習科目においては、きめ細かい指導が受けられるように、TA 制度を導入しています。【CP-L-3-3】

・講義などの時間だけでなく、オフィスアワーを設け、個々の学生に合わせた対応を実施しています。【CP-L-3-4】

(4) 学修成果の評価

・修学要綱に定める GPA 評価と A(優)の取得数により、修学指導を行います。【CP-L-4-1】

・各学期末に、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを OECU MyPage 上で提示します。【CP-L-4-2】

・総合医療エンジニアとしての基礎知識を確認する実力テストを実施します。【CP-L-4-3】

(5) 進路

医療福祉工学科の卒業生は以下の進路で活躍しています。

(a) 大学院に進学し、臨床工学技士養成校の教育職（教員）、高度医療機器の開発職に従事【CP-L-5-1】

(b) 医療機関で臨床工学技士として医療業務に従事【CP-L-5-2】

(c) 医療系企業・健康関連企業などで総合医療エンジニアとして医療機器の開発・設計業務に従事【CP-L-5-3】

(d) 一般企業でヘルスケア、電気電子工学、機械工学、情報工学分野の技術職に従事【CP-L-5-4】

(e) 教員免許（工業、数学）を取得して、教育職に従事【CP-L-5-5】

○理学療法学科 カリキュラム・ポリシー

理学療法学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1) 獲得すべき力

・多様化し、高度化、専門化する医療技術に対応可能な「人間力」【CP-Y-1-1】

・理学療法士として必要な基礎及び臨床医学の「専門知識」と「基本技術」【CP-Y-1-2】

・対象者の声を『聴く』ことができ、共感し理解しあえる「コミュニケーション力」【CP-Y-1-3】

・理学療法分野の全体にわたる基礎的な事項の概要をわかりやすく説明できる「プレゼンテーション能力」【CP-Y-1-4】

・理学療法士の社会的役割と医療倫理を理解し、実践できる「責任感」【CP-Y-1-5】

(2) 学修内容

・初年次教育

(a) 医療の専門職としての理学療法の概要を学ぶとともに、基本的な学習態度を身に付けます。見学実習により、臨床現場での理学療法士の業務を理解し、キャリアデザインで修得した考え方を確認し、職業的なモチベーションを高めます。【CP-Y-2-1】

(b) 解剖学、生理学、運動学などの基礎医学科目で基礎的な医学知識を学習し、専門科目の基礎を固めます。また、基礎専門教育で工学的な知識に触れ、医学領域での意味を学びます。【CP-Y-2-2】

・教養教育

(a) 総合科目では、よりよい暮らしを願い、よりよい社会を築いていこうとするすべての人々の願いに応えることのできる基本的知識（人間・社会そして自然に関する基本的知識）を教育します。【CP-Y-2-3】

(b) 異なる文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。これらの教育により、幅広く人間に対する理解を深め、対人援助職として多様な価値観に対応できる能力を養います。

外国語群の英語においては、プレイスメントテストを実施し、習熟度に基づくクラス編成を行い、指導します。4技能（聞く・話す・読む・書く）全般の教育を目指し、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の実践を行います。また、専門科目での用語の理解が円滑に進むよう医学英語を学びます。【CP-Y-2-4】

・専門教育

(a) 生理学・解剖学などの基礎医学、人体の運動の基礎を学ぶ運動学など人体の構造、機能、運動の基本となる医学的知識を学びます。【CP-Y-2-5】

(b) 支援工学では、生体計測や福祉環境に関する基本的な工学知識を学びます。【CP-Y-2-6】

(c) 臨床医学では、理学療法の対象となる疾病や外傷について医学的知識を学びます。

【CP-Y-2-7】

(d) 基礎理学療法学では、運動療法、義肢装具学、物理療法など理学療法の各領域の知識、技術を学びます。【CP-Y-2-8】

(e) 理学療法治療学領域では、疾患ごとの理学療法の実際を演習を交えて学びます。

【CP-Y-2-9】

(f) 応用理学療法学では、臨床現場でのチームアプローチの実際や、介助技術の実際を学びます。【CP-Y-2-10】

(g) 卒業研究は、習得してきた知識・技術の集大成として研究に取り組み、研究法、プレゼンテーション、問題解決能力を養います。【CP-Y-2-11】

(h) 臨床実習では、臨床現場で、理学療法の実践を経験し、学んできた知識・技術の統合を行い、理解を深めます。【CP-Y-2-12】

・理学療法士国家試験

(a) 厚生労働省の指定科目を開講し、模擬試験や e-learning、特別講義などで、国家試験合格に必要な知識をまとめます。【CP-Y-2-13】

・キャリア教育

(a) アカデミックライティングなどで、作文技術やプレゼンテーション技術を養います。【CP-Y-2-14】

(b) 理学療法キャリアデザインでは、理学療法士として要求される基本的資質を理解し、身につけるよう支援します。【CP-Y-2-15】

(c) 理学療法士として要求されるマナー、心構えなどを養います。【CP-Y-2-16】

(3) 教育方法

・本学の学習支援ツールである OECU MyPage を利用して 4 年間の学習体系を確認しながら学習することができます。【CP-Y-3-1】

・国家試験対策で、e-learning により、効率的な学習を行えます。【CP-Y-3-2】

・オフィスアワーの時間を設定し、個別の学習相談にあたります。【CP-Y-3-3】

(4) 学修成果の評価

・GPA 評価により、各期に修学指導を行います。【CP-Y-4-1】

・各期ごとに、学修効果測定グラフを OECU MyPage に提示します。【CP-Y-4-2】

・理学療法士としての基礎知識を確認する基礎領域の実力テストを実施します。【CP-Y-4-3】

・理学療法士国家試験の模擬試験を実施し、総合的な実力の把握を行います。【CP-Y-4-4】

(5) 進路

(a) 主として医療機関で理学療法士として医学的リハビリテーションに従事します。

【CP-Y-5-1】

(b) 大学院で、さらに高度な理学療法の研究にあたります。【CP-Y-5-2】

○健康スポーツ科学科 カリキュラム・ポリシー

健康スポーツ科学科はディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。健康スポーツ科学科では、医学・情報科学・健康科学・スポーツ指導について修得できます。理学療法学科や医療福祉工学科とも連携し、他学科の専門科目の単位互換も認めています。リハビリテーション技術やエンジニアリング技術について広い学問領域に渡る専門的な知識を修得したい学生の要望にも十分に答えることが可能であり、他の大学にはない特色豊かなカリキュラムになっています。

1 年次では主として語学や数学、生理学、解剖学といった基礎科目を修得します。2 年次より各進路に応じた専門課程を修得し、さらに専門性の高い技術を修得し、知識を応用できる力をつけるために 3・4 年次では主に実習科目を修得し、各研究室に配属されて個別指導を受けます。

(1) 獲得すべき力

・何事に於いても真摯に同僚、友人、上司と向きあうことの出来る「人間力」【CP-S-1-1】

・健康スポーツ科学分野に関する「技術力」【CP-S-1-2】

・自分と異なる他者の意見をも『聴く』ことができる双方向の「コミュニケーション力」

【CP-S-1-3】

・健康スポーツ科学分野全体にわたる基礎的な事項の概要を説明および健康指導ができる

「知識・理解力」【CP-S-1-4】

(2) 学修内容

・初年次教育

大学での専門分野の学修に必要な基礎力の養成につとめるよう、基礎科目が編成されています。

「基礎専門科目」では、社会学、数学、理科、情報についてのさまざまな科目を修得させます。社会学分野では健康教育や学校教育において必須の教育や人間の心の動きについての基礎知識を学びます。理科分野では、人間の健康や運動を理解する基礎として必ず必要となる生理学や解剖学など人体の機能や構造を学ぶ為に必要な知識を修得し、数学分野では科学的にデータを分析するために必要な数学・物理の基礎知識について修得します。また、情報分野では卒業研究で必要となるだけでなく現代社会では必須となっているコンピュータの扱い方やプログラミング技法について学びます。【CP-S-2-1】

・教養教育

総合科目では、よりよい暮らしや社会を築くためにすべての人々に必要不可欠な基本的知識（人間・社会そして自然に関する基本的知識）を教育します。また、異なった文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。

外国語群の英語においては、プレイスメントテストを実施し、習熟度に基づくクラス編成を行い、指導します。4技能（聞く・話す・読む・書く）全般の教育を目指しますが、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の実践を行います。【CP-S-2-2】

・専門教育

(a) 健康科学分野

健康を維持するために必要な栄養素や運動が体へ与える効果及び運動プログラムの作成方法等について学ぶため健康維持・増進に欠かせない専門的な講義を通して健康運動指導法について学びます。「運動生理学・実習」では、被験者、測定者として運動時の生体反応を測定する体験を通して技術を修得し、座学の知識を深めます。また、コナミスポーツクラブ等の施設で健康運動の指導を実践し、身に付けることができます。また、「健康運動指導実技」や「健康運動指導特別演習」において、「健康運動指導士」、「健康運動実践指導者」といった資格を目指す学生のサポートも行います。【CP-S-2-3】

(b) スポーツ科学分野

スポーツを科学的に分析するための手法について学び、指導者として必要な能力を身に付けるために1・2年次では実技科目を主体に様々なスポーツ競技に触れ、各競技の特性についてよく理解し、スポーツの歴史や文化的な意義についても学びます。また、医学・心理学・社会学などといった広い視点で運動の方法論や技術論について学びます。「体力測定と評価」で体力テストを実施するための方法論を学び、「運動と心の健康増進」では運動と心との関わりについてより深く学ぶことができます。スポーツでの身体動作のメカニズムを「バイオメカニクス」で理解し、人間の運動をコンピュータ上で解析するために、力学シミュレーション等によりスポーツを科学的に分析する手法を学ぶことができます。

【CP-S-2-4】

(c) 健康機器開発分野

情報技術を駆使して、心拍計や歩数計のような健康を維持・増進するために役立つ機器を開発する技術を学びます。専門科目としてコンピュータ工学や医療情報学分野の科目により情報技術と人との関わりについて学びます。また、現代社会では必須となったインターネットで情報発信するために必要なホームページ作成技術についても指導します。「生体計測学・実習」では、健康スポーツ科学分野の研究に必要な各種の測定について、少人数のグループで実習し、卒業研究に必要な能力の修得にも役立ちます。【CP-S-2-5】

・キャリア教育

段階的に、働くということ、各自の適性、専門分野の生かし方等について学べるようにしています。健康維持増進に関する仕事、業界で活躍する社会人やキャリア教育専門の外部講師による特別講義もふくめ、様々な情報や知識を得られる機会を与えます。3・4年次では各卒業研究指導教員から、卒業研究の時期と同時に進行する就職活動において進路に関する相談支援や就職指導を受け、実際に就職試験や面接に望むにあたっての悩みなども解

決しながら、就職活動を進められるように支援しています。【CP-S-2-6】

(3) 教育方法

学生自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学修する支援ツール OECU MyPage に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の振り返りを行います。また、記載内容に対して、グループ担任がコメントを返します。少人数のグループ担任制により、学修状況や学校生活状況に関する相談や、個別指導を行います。3・4年次では卒業研究指導教員による研究、就職指導を行います。【CP-S-3-1】

(4) 学修成果の評価

修学要綱に定める GPA を用いて修学指導を行います。また、GPA は学業優秀賞、各種奨学金および大学院内部進学の対象者選抜等に用います。各学期末に各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学習効果測定グラフを OECU MyPage 上で提示します。【CP-S-4-1】

(5) 進路

健康スポーツ科学科の卒業生は、スポーツ指導に関する仕事のみならず以下の幅広い進路を選択し、活躍しています。

(a) 大学院進学（健康・スポーツ機器開発・研究者、高度教育機関の教員を目指す）
【CP-S-5-1】

(b) フィットネスクラブ、健康増進施設のトレーナー（健康運動指導士、健康運動実践指導者）【CP-S-5-2】

(c) 健康・スポーツ関連機器技術者（スポーツ用品、健康増進機器の開発・設計・管理を行う）【CP-S-5-3】

(d) スポーツ教育者（高等学校、中学校の保健体育教員、ジュニアスポーツ指導員）
【CP-S-5-4】

(e) 福祉、介護、医療法人職員（リハビリや介護に関連する運動指導やサポート）【CP-S-5-5】

(f) 種々企業に於ける営業職（高いコミュニケーション力や健康、医療関連の知識を期待され、広く様々な企業の営業職の求人多数。医療機器メーカーへも就職）【CP-S-5-6】

◎総合情報学部 カリキュラム・ポリシー

総合情報学部では、芸術表現力や科学技術力を基盤とした実学教育を根幹としています。それを実現するために、次のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。

- (1) すべての学生を対象とした「総合科目」を設置しています。これらを通して、知識と教養を養うとともに学習方法の習得を目指します。
- (2) 「専門科目」では、各々の学問的方法を体系的に学び、問題解決方法、および問題の本質を見抜く洞察力や判断力の習得を目指します。
- (3) 少人数の参加型授業である「演習」や「実験」を多数設置し、すべての学生がもれなく履修できるようにしています。
- (4) 「卒業研究」または「卒業制作」において、これまでに身に付けた知識、技能・技術、思考力、および表現力等を活用し、それらを総合的にまとめるべく丁寧な個別指導をしています。

○デジタルゲーム学科 カリキュラム・ポリシー

デジタルゲーム学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1) 獲得すべき力

- ・友人、同僚、上司と正面から向き合う「人間力」【CP-W-1-1】
- ・デジタルゲームを主軸としたエンタテインメントコンテンツ分野に関する専門的な「技術力」【CP-W-1-2】
- ・自分と異なる他者の意見をも「聴く」ことができる双方向のコミュニケーション力【CP-W-1-3】
- ・デジタルゲームを主軸としたエンタテインメントコンテンツ分野の全体にわたる基礎的な事項の概要を説明できる知識・理解力【CP-W-1-4】

(2) 学修内容

・初年次教育

大学では、高校までの授業と異なり、主体的な学習が求められます。このため大学入門などで大学の学修に必要な能力を育成します。【CP-W-2-1】

・教養科目

総合科目では、人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群等の講義・実習を履修し広範で多様な文化・教養に触れ、専門性につながる基本的な学習姿勢を身につけることにより、職業人としての素地を養います。【CP-W-2-2】

・専門教育

専門科目を、キャリアユニット、アート&デザインユニット、エンジニアリングユニット、デベロップメントユニット、マネジメントユニット、グラフィックスユニット、の6つのユニット（科目群）に分類しています。キャリアユニット（必修）を含む3つを選択履修し、個々の専門領域の知識と技能の基盤を形成します。【CP-W-2-3】

アート&デザインユニットでは、デッサンの基礎から芸術的表現、人間の認知理論や多様なデザイン表現の技術を学びます。【CP-W-2-4】

エンジニアリングユニットでは、ハードウェアやネットワークを含めたシステム構築技術を学びます。【CP-W-2-5】

デベロップメントユニットでは、ソフトウェア開発等の情報処理技術を中心に、ゲーム開発の技術を学びます。【CP-W-2-6】

マネジメントユニットでは、エンタテインメントをプロデュースする手法やマーケティング、プランニング、マネージメントの関連知識を学びます。【CP-W-2-7】

グラフィックスユニットでは、2D/3D CG 等、デジタルコンテンツの制作技法を学び、技術の向上を図ります。【CP-W-2-8】

グラフィックスユニットでは、2D/3D CG 等、デジタルコンテンツの制作技法を学び、技術の向上を図ります。

学修の集大成となる4年次の卒業研究・卒業制作では、その成果を一般の方も参加できる

場で展示・発表することで、成果に対する評価を得るとともに、来場者に対するホスピタリティを実践的に学びます。【CP-W-2-9】

・キャリア教育

キャリアユニットを必修としています。キャリアユニットではプロジェクトを推進し、情報化社会でキャリアを形成するための基礎を学びます。企画・設計・実現にいたる開発プロジェクトにチームで取り組む実習や企業での実践的方法を体験するインターンシップ、学外での展示会への出展等も、さらなる知識と経験を得る機会として、キャリアユニットに科目を配しています。【CP-W-2-10】

(3) 教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール（OECU MyPage）に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の振り返りを行います。また、記載内容に対して、グループ担任もしくは指導教員がコメントを返します。【CP-W-3-1】

(4) 学修成果の評価

・修学要綱に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。【CP-W-4-1】

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。【CP-W-4-2】

・各学期末に、学修成果を具体的に把握するため、グループ担任もしくは指導教員により面談を実施します。【CP-W-4-3】

(5) 進路

デジタルゲーム学科の卒業は、デジタルゲームならびにエンタテインメントコンテンツの企画・制作、情報技術に基づくさまざまなコンテンツ開発、その他情報メディア関連分野、大学院への進学等の進路を選択しています。【CP-W-5-1】

○ゲーム&メディア学科 カリキュラム・ポリシー

ゲーム&メディア学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1) 獲得すべき力

・友人、同僚、上司と正面から向き合う「人間力」【CP-B-1-1】

・自分と異なる他者の意見をも「聴く」ことができる双方向のコミュニケーション力【CP-B-1-2】

・デジタルゲームとエンタテインメントコンテンツ分野の全体にわたる広く基礎的な事項の概要を説明できる知識・理解力【CP-B-1-3】

・デジタルゲームとエンタテインメントコンテンツ分野に関する「技術力」【CP-B-1-4】

(2) 学修内容

・初年次教育

大学では、高校までの授業と異なり、主体的な学習が求められます。このため大学入門などで大学の学修に必要な能力を育成します。【CP-B-2-1】

・教養科目

総合科目では、人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群等の講義・実習を履修し広範で多様な文化・教養に触れ、専門性につながる基本的な学習姿勢を身につけることにより、職業人としての素地を養います。【CP-B-2-2】

・専門教育

専門科目を、キャリアユニット、アート&デザインユニット、アニメーションユニット、ゲームユニット、ライブユニット、カルチャーユニットの6つのユニット（科目群）に分類しています。キャリアユニット（必修）を含む3つを選択履修し、個々の専門領域の知識と技能の基盤を形成します。【CP-B-2-3】

アート&デザインユニットでは、デッサンの基礎から芸術的表現、人間の認知理論や多様なデザイン表現の技術を学びます。【CP-B-2-4】 アニメーションユニットでは、アニメーション表現の領域について2D/3D CG等、デジタル技術を用いた制作と編集の技術を学びます。【CP-B-2-5】

ゲームユニットでは、デジタルゲーム制作の基本である企画やプログラミングについて基礎から学びます。【CP-B-2-6】

ライブユニットでは、実写映像や e-Sports 実況など、放送やイベントの分野を対象とした知識や制作技術を学びます。【CP-B-2-7】

カルチャーユニットでは、芸術、文芸、教育、国際化といった観点からゲームに関わる文化的側面について学びます。【CP-B-2-8】

学修の集大成となる 4 年次の卒業研究・卒業制作では、その成果を一般の方も参加できる場で展示・発表することで、成果に対する評価を得るとともに、来場者に対するホスピタリティを実践的に学びます。【CP-B-2-9】

・キャリア教育

キャリアユニットを必修としています。キャリアユニットではプロジェクトを推進し、情報化社会でキャリアを形成するための基礎を学びます。

企画・設計・実現にいたる開発プロジェクトにチームで取り組む実習や企業での実践的方法を体験するインターンシップ、学外での展示会への出展等も、さらなる知識と経験を得る機会として、キャリアユニットに科目を配しています。【CP-B-2-10】

(3) 教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール(OECU MyPage)に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の振り返りを行います。また、記載内容に対して、グループ担任もしくは指導教員がコメントを返します。【CP-B-3-1】

(4) 学修成果の評価

・修学要綱に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。【CP-B-4-1】

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。【CP-B-4-2】

・各学期末に、学修成果を具体的に把握するため、グループ担任もしくは指導教員により面談を実施します。【CP-B-4-3】

(5) 進路

・ゲーム&メディア学科の卒業生は、デジタルゲームならびにエンタテインメントコンテンツの企画・制作、放送や出版分野でのさまざまなコンテンツ開発、その他情報メディア関連分野、大学院への進学等の進路を選択することを想定しています。【CP-B-5-1】

○情報学科 カリキュラム・ポリシー

情報学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。

(1) 獲得すべき力

・友人、同僚、上司と正面から向き合う「人間力」【CP-T-1-1】

・自分と異なる他者の意見をも「聴く」ことができる双方向のコミュニケーション力【CP-T-1-2】

・ソフトウェア科学、コンピュータ工学、情報システム、情報メディア分野における情報学の「知識」【CP-T-1-3】

・情報リテラシー及びプログラミング等の「実践力」【CP-T-1-4】

・日本語及び外国語の「文章読解・作成能力」【CP-T-1-5】

・スタディスキル及びエンジニアリングデザイン能力【CP-T-1-6】

(2) 学修内容

・初年次教育

専門科目を学ぶに必要な基礎的な数学やコンピュータリテラシー及び自分で学習を行うためのスキルを身に付けます。【CP-T-2-1】

・教養教育

総合科目では、情報技術(IT)が社会や文化等に与える影響とその責任を自覚するために、文化、社会、歴史、国際関係等の地球的視点から多面的にものごとを考える素養を身に付けます。また、異なった文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健

康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・自然群」、「外国語群」、「健康・スポーツ群」の3群を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。

外国語群の英語において、IT技術者として必要な外国語の基礎能力を身に付けます。プレイスメントテストを実施し、習熟度に基づくクラス編成を行い、指導します。4技能（聞く・話す・読む・書く）全般の教育を目指しますが、特にリーディングに焦点を当てた基礎教育の実践を行います。【CP-T-2-2】

・専門教育

ソフトウェア科学分野、コンピュータ工学分野、情報システム分野、情報メディア分野があります。「ソフトウェア科学」分野でソフトウェアの開発手法やプログラミング技法、「コンピュータ工学」分野ではコンピュータの仕組みや組込みシステム、「情報システム」では情報ネット

ワークおよび情報システムの設計・運営、「情報メディア」分野ではコンピュータグラフィックス、バーチャルリアリティについて学びます。必ずしも解が一つでない課題に対して、種々の学問・技術を統合して、実現可能な解を見つけ出していく能力を「卒業研究」の科目等により

エンジニアリングデザイン能力を身に付けます。

1年次では「線形代数」、「離散数学」等、2年次に「確率・統計」の数学、「C++プログラミング実習 1、2」でプログラミングの初歩を学びます。2年次以上では、コンピュータアーキテクチャ、情報ネットワーク、論理設計、アルゴリズムとデータ構造、ソフトウェア設計論などの専門科目を学びます。3年次では、「卒業研究(必修)」において、高度な実践力、問題解決能力、エンジニアデザイン能力を身に付けます。

4年次では、「特別研究」という卒業研究に準ずる位置づけの科目において、指導教員のもと少人数グループ教育を行って指導を密にし、実践力の向上を図ります。【CP-T-2-3】

・キャリア教育

「テクニカルライティング(1年次)」、「テクニカルプレゼンテーション(2年次)」、「グループディスカッション(3年次)」において、ライティング、プレゼンテーション、ディスカッション技法について学ぶと共に、実際の企業の方の講演を聞くなど情報スペシャリスト、社会人としての心構えを身に付けます。【CP-T-2-4】

(3) 教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール OECU MyPage に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の振り返りを行います。また、記載内容に対して、グループ担任もしくは指導教員がコメントを返します。【CP-T-3-1】

・学生が自ら長期的学習状況を振り返り主体的に学習する支援ツール OECU MyPage に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の振り返りを行います。また、記載内容に対してグループ担任がコメントを返します。【CP-T-3-2】

(4) 学修成果の評価

・修学要綱に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。【CP-T-4-1】

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを OECU MyPage 上で提示します。また学科が定めるスキル分野の単位修得状況も OECU MyPage 上で提示します。【CP-T-4-2】

・各学期末に、学修成果を具体的に把握するため、グループ担任もしくは指導教員により面談を実施します。【CP-T-4-3】

(5) 進路

情報学科の卒業生はソフトウェア、情報システム、情報通信及び情報関連のサービス分野に就職又は大学院へ進学をしています。【CP-T-5-1】

◎金融経済学部 カリキュラム・ポリシー

○資産運用学科 カリキュラム・ポリシー

資産運用学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程編成方針を定めています。この方針は、金融や資産運用に関する知識は、現代においては生活人として、企業人として、金融関係者として求められる汎用性のあるリテラシーであるとの考えを基礎としています。

(1)獲得すべき力

- ・友人、同僚、上司と正面から向き合う「人間力」【CP-A-1-1】
- ・自分と異なる他者の意見をも『聴く』ことができる「双方向のコミュニケーション力」【CP-A-1-2】
- ・金融や資本市場、資産運用、簿記・会計、ビジネス IT 等の分野における基礎的な概要を説明できる「知識・理解力」【CP-A-1-3】
- ・資産運用分野における「科学的思考力」による「判断力」や「決断力」【CP-A-1-4】
- ・資産運用分野における問題解決へのプランの提供や実際に取り組む「行動力」【CP-A-1-5】
- ・社会の発展のために貢献するための「倫理観」と「責任感」【CP-A-1-6】
- ・資産運用分野において、常に創造的な思考力を駆使できる力【CP-A-1-7】

(2)学修内容

・初年次教育

大学では、高校までの授業と異なり、主体的な学習が求められます。このため入学後の大学での学修に必要な基礎的な能力である言語能力（日本語・外国語）、数学、パソコン操作に関する能力を育成します。また、基礎ゼミ 1（必修科目）では、入学生の多様性を考慮して、2 年次以降の学修計画の策定をサポートしたり、グループ作業を実践することで、文章力やコミュニケーション力を高めたりすることも狙いとしています。さらに、担当教員が学生の特質や特徴に応じたきめの細かい指導やサポートをします。【CP-A-2-1】

・教養教育

総合科目は、よりよい暮らしを願い、よりよい社会を築いていこうとするすべての人々の願いに応えることのできる基本的知識（人間・社会そして自然に関する基本的知識）を教育します。また、異なった文化を持つ地域の人々と交流し、相互理解できる力、さらには健康で生涯を力強く生きていくことのできる方法についても学べるように「人文・社会・科学群」、「語学群」、「自立形成群」、「健康・スポーツ群」の 4 群を配置して、バランスの取れた幅広い教養教育を行います。【CP-A-2-2】

・専門教育

基礎専門科目（数学・情報処理、法律、経営、経済金融、簿記・会計）と専門科目（コース別の専門科目）とに分類し、証券、経済、法律、簿記・会計等、実務につながる様々な分野の基礎的な部分を段階的に履修し、知識の幅を広げてゆきます。

また、自分に合った実務的な知識やスキルを修得できるように 5つのコースを設け、カリキュラムの編成と科目配置をしています。これは、学生の多様性に配慮する一方で、社会人になったときに役立つ実務の専門性を養成する趣旨から設定しています。このコース選択をする際には、コース選択を過度に意識する必要はなく、社会人として必要とされる知識や能力を養成する基礎専門科目を修得したうえで、各人の関心や志向に合わせて専門科目を選択していく形となります。【CP-A-2-3】

・キャリア教育

キャリア形成していくうえで基礎となる能力（リテラシー）の養成や将来の人生設計（キャリアデザイン）を考える機会の提供を行います。学修の成果を確認する趣旨から、それぞれのコースの履修内容に沿った、専門性の高い資格取得を奨励しています。具体的には、証券アナリスト、FP（フィナンシャル・プランナー）、簿記・税理士、宅地建物取引士、証券外務員、SAS（統計分析ソフト）認定資格、英語（TOEIC 等）等です。専門ゼミ 1 と 2 での学修と並行して、卒業後の進路指導（就活や大学院進学）も実施しています。

【CP-A-2-4】

(3)教育方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学習する支援ツール OECU MyPage に目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の振り返りを行います。また、記載内容に対して、グループ担任がコメントを返します。【CP-A-3-1】

・1・2年次は、基礎的な素養の再確認・底上げと合わせ、専門科目の基礎的な部分を幅広く教育します。また、学生の多様性に対応できるように、基礎ゼミにおいて個人別のきめの細かい学修指導をおこなっています。【CP-A-3-2】

・3年次からは、将来の進路を展望しながら専門分野ごとのコースを選択します。さらに少人数のゼミに所属し、担当教員のもとで専門性の高い知識・スキルを修得します。

【CP-A-3-3】

・専門ゼミではディスカッションやプレゼンテーションを実践することを通じて、ソーシャル・スキルやコミュニケーション能力を磨きます。

【CP-A-3-4】

(4)学修成果の評価

・修学要綱に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金の対象者選抜等に用います。【CP-A-4-1】

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを OECU MyPage 上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位修得状況も OECU MyPage 上で提示します。【CP-A-4-2】

・前期と後期でそれぞれ成績表を所属ゼミの担当教員から配付し、成績の結果のふり返りと今後の履修計画についての相談と指導を個別の学生ごとに実施します。【CP-A-4-3】

(5)進路

資産運用学科の卒業生は、資産運用、金融商品販売、不動産営業、企業財務、営業・総務その他幅広い実務に関わる分野への進路を選択しています。【CP-A-5-1】

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学 HP にて公表
<https://www.osakac.ac.jp/about/policy/pdf/policy.pdf> 及び入学時に冊子「教育基本
三方針」を配付）

（概要）

大阪電気通信大学 アドミッション・ポリシー

大阪電気通信大学は、時代のニーズにマッチした確かな技術力を身に付け、社会で役立つ人材を育成・輩出することを使命としています。そのために、幅広い科学技術における実学をベースに人間力を培い、夢を形にできるスペシャリストの養成をめざした全人的教育を進めています。

本学は、そのような人材の教育にあたり、次のようなことに意欲と情熱をもった学生を求めます。

- (1)得意な分野を活かし、社会への貢献をめざす人
- (2)自らの目標に向かって努力を惜しまない人
- (3)大阪電気通信大学を母校として愛し、仲間とともに励まし学び合える人

◎工学部 アドミッション・ポリシー

工学部は、産業の基盤である総合的な工学技術を支え発展させるために、その基礎知識および応用に関する実学教育を通じて、学生の学習成果の向上および学習目標の達成を支援し、広く社会および産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的としています。このため、次のような学生を求めています。

- (1)モノづくりに興味をもち、積極的に取り組む姿勢と意欲をもっている人
- (2)持続可能な社会の形成に貢献したいと思っている人
- (3)幅広い分野の技術者として活躍したいと考えている人
- (4)科学技術を身に付けた教師（数学、理科、工業、情報、技術など）になりたいと考えている人

上記のアドミッション・ポリシーに加えて、各学科の教育方針に合わせて、学科のアドミッション・ポリシーを定めています。

○電気電子工学科のアドミッション・ポリシー：

電気電子工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

（知識・技能）

- (1)高等学校までの履修科目のうち、「数学」を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている。【AP-E-1-1】
- (2)高等学校までの履修科目のうち、「理科」を学び、自然の事物・現象について科学的に探究する能力を身に付けている。

【AP-E-1-2】

- (3)高等学校までの履修科目のうち、「英語」に関する基礎知識を身に付けている。

【AP-E-1-3】

（思考力・判断力・表現力）

- (4)これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる。

【AP-E-2-1】

（主体性）

- (5)電気電子工学の専門知識の修得や技能獲得について、主体的に考え、積極的に取り組むことができる。【AP-E-3-1】

- (6)エネルギー、電気電子機器、情報システム分野の勉強に興味を持ち、意欲的に取り組むことができる。【AP-E-3-2】

- (7)電気電子工学分野のモノづくり、管理・保全、研究開発、教育などで社会に貢献するという高い志を持って努力することができる。【AP-E-3-3】

○電子機械工学科のアドミッション・ポリシー：

電子機械工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

(1) 高等学校までの履修科目のうち、「理科」または「工業科系科目」を学び、自然の事物・現象や産業技術について科学的・工学的に探究する能力を身に付けている。【AP-H-1-1】

(2) 高等学校までの履修科目のうち、「数学」を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている。【AP-H-1-2】

(3) 高等学校までの履修科目のうち、「情報」または「情報系科目」を学び、情報や情報技術に関する科学的・工学的な見方や考え方を身に付けている。【AP-H-1-3】

(思考力・判断力・表現力)

(4) これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる。

【AP-H-2-1】

(主体性)

(5) 機械、電気・電子やメカトロニクスについて、主体的に考え、積極的に取り組むことができる。【AP-H-3-1】

○機械工学科のアドミッション・ポリシー：

機械工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

(1) 高等学校までの履修科目のうち、「数学」を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている。【AP-J-1-1】

(2) 高等学校までの履修科目のうち、「理科」を学び、自然の事物・現象について科学的に探究する能力を身に付けている。

【AP-J-1-2】

(3) 高等学校までの履修科目のうち、「情報（社会と情報または情報の科学）」を学び、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を身に付けている。

【AP-J-1-3】

(思考力・判断力・表現力)

(4) これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる。

【AP-J-2-1】

(主体性)

(5) モノづくりについて、主体的に考え、積極的に取り組むことができる。【AP-J-3-1】

(6) 機械工学の専門知識を積極的に身に付けたいと考えている。【AP-J-3-2】

○基礎理工学科のアドミッション・ポリシー：

基礎理工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

(1) 高等学校までの履修科目のうち、「国語（国語総合）」を学び、日本語を話すこと、聞くこと、書くこと、読むことの基礎的な知識・技能を身に付けている。【AP-N-1-1】

(2) 高等学校までの履修科目のうち、「数学」を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている。【AP-N-1-2】

(3) 高等学校までの履修科目のうち、「理科」を学び、自然の事物・現象を理解し、科学的に探究する能力を身に付けている。

【AP-N-1-3】

(思考力・判断力・表現力)

(4) これまでの知識を基に、自由な発想によって自ら探求し、新たな価値を創造することができる。【AP-N-2-1】

(主体性)

(5)自然科学に興味があり、問題の発見やその解決について、主体的に考え、積極的に取り組むことができる。【AP-N-3-1】

○環境科学科のアドミッション・ポリシー：

環境科学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような内容の学生を求めています。

(知識・技能)

(1)環境科学の基礎となる「理科」、「数学」を学び、自然の事物・現象について論理的に探究し、表現できる能力を身に付けている。【AP-U-1-1】

(思考力・判断力・表現力)

(2)基本的なコミュニケーションに必要な、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことを身に付けている。【AP-U-2-1】

(主体性)

(3)生活、健康、環境について、科学的な観点から主体的に考え、積極的に取り組むことができる。【AP-U-3-1】

○建築学科のアドミッション・ポリシー：

建築学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

(1)高等学校までの履修科目のうち、「理科」または「工業化系科目」を学び、自然の事物・現象や産業技術について科学的・工学的に探求する能力を身に付けている。【AP-C-1-1】

(2)高等学校までの履修科目のうち、「数学」を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている。【AP-C-1-2】

(3)高等学校までの履修科目のうち、「情報」または「情報系科目」を学び、情報や情報技術に関する科学的・工学的な見方や考え方を身に付けている。【AP-C-1-3】

(思考力・判断力・表現力)

(4)これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる。【AP-C-2-1】

(主体性)

(5)建築の専門知識や技能を学びたいと強く望み、主体的に学ぶことができる。【AP-C-3-1】

(6)建物やまちづくりについて、人々と積極的に交流しながら、取り組むことができる。【AP-C-3-2】

(7)建築士を目指して、真剣に取り組むことができる。【AP-C-3-3】

◎情報通信工学部 アドミッション・ポリシー

情報通信工学部は、現代社会の基盤技術である情報通信工学にかかわる基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成を支援し、情報通信技術をベースとして広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的としています。このため、次のような学生を求めています。

- (1) 情報・通信分野に強い関心を持ち、社会で活躍したいと考えている人
 - (2) 論理的思考と自由な発想で、新たな価値を創造したいと考えている人
 - (3) 科学技術を身に付けた教師（数学、工業、情報など）になりたいと考えている人
- 上記のアドミッション・ポリシーに加えて、各学科の教育方針に合わせて、学科のアドミッション・ポリシーを定めています。

○情報工学科のアドミッション・ポリシー

情報工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

- (1) 高等学校までの履修科目のうち、「国語(国語総合)」を学び、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けていること。【AP-P-1-1】
- (2) 高等学校までの履修科目のうち、「英語」を学び、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けていること。【AP-P-1-2】
- (3) 高等学校までの履修科目のうち、「情報(社会と情報または情報の科学)」を学び、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を身に付けていること。【AP-P-1-3】
- (4) 高等学校までの履修科目のうち、「数学」を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けていること。【AP-P-1-4】
- (5) 高等学校までの履修科目のうち、「理科」を学び、自然の事物・現象について科学的に探究する能力を身に付けていること。

【AP-P-1-5】

(思考力・判断力・表現力)

- (6) これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる。

【AP-P-2-1】

(主体性)

- (7) 社会貢献や自己キャリア設計について、主体的に考え、積極的に取り組むことができる。

【AP-P-3-1】

○通信工学科のアドミッション・ポリシー：

通信工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。(知識・技能)

- (1) 高等学校までの履修科目のうち、「数学」を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている。【AP-F-1-1】
- (2) 高等学校までの履修科目のうち、「理科」を学び、自然の事物・現象について科学的に探究する能力を身に付けている。

【AP-F-1-2】

(3) 高等学校までの履修科目のうち、「情報(社会と情報 または 情報の科学)」を学び、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を身に付けている。

【AP-F-1-3】

(4) 高等学校までの履修科目のうち、「国語(国語総合)」を学び、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。【AP-F-1-4】

(5) 高等学校までの履修科目のうち、「英語」を学び、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。【AP-F-1-5】

(思考力・判断力・表現力)

(6) これまでの知識を基に、未知の現象について、深い考察と的確な判断に基づく確認作業により、その現象を解明し、説明することができる。【AP-F-2-1】

(7) これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる。
【AP-F-2-2】

(主体性)

(8) 新しい目標を自ら設定することや未解決の問題について、主体的に考え、その実現と解決に積極的に取り組むことができる。【AP-F-3-1】

◎医療福祉工学部 アドミッション・ポリシー

医療福祉工学部（医療健康科学部に2020年度より名称変更）は、人々の生活の質の向上を目指し、医療、健康、福祉及びリハビリテーションに活用可能な技術の基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成を支援し、広く社会で主体的に活躍できる専門的人材を育成することを目的としています。このため、次のような学生を求めています。

1. 自ら考え行動しようとする学習意欲の高い人
2. 医療あるいは福祉の分野で人の役にたちたいと考えている人
3. スポーツや科学技術を通して健康社会をつくる意欲をもった人

上記のアドミッション・ポリシーに加えて、各学科の教育方針に合わせて、学科のアドミッション・ポリシーを定めています。

○医療福祉工学科（医療科学科に2020年度より名称変更）のアドミッション・ポリシー
医療福祉工学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

（知識・技能）

1. 高等学校までの履修科目のうち、「国語(国語総合)」を学び、コミュニケーションの基本的な知識技能を身に付けている人
2. 高等学校までの履修科目のうち、「英語」を学び、コミュニケーションの基本的な知識技能を身に付けている人
3. 事象を数学的に考え、表現する能力を育成するために、数学について基礎知識を身に付けている人
4. 自然の事物・現象について、科学的に探求する能力を育成するために、物理、化学、生物の中で1科目以上について基礎知識を身に付けている人
5. 医療技術および福祉技術、情報技術に関する科学的な考え方を育成するために、「工業系科目」の基礎知識を身に付けている人

（思考力・判断力・表現力）

6. 知的好奇心があり、自由な発想によって新しいものを創造する意思がある人
7. 人々の健康、福利、権利を守る意識があり、プライバシーおよび個人情報を正しく取り扱うことができる人

（主体性）

8. 医学・健康・医療工学および福祉工学に関する学習や研究に、主体的かつ積極的に取り組むことができる人
9. 人の尊厳と権利を尊重し、人のために行動できる意思と人の気持ちを理解する努力を続けることができる人

○理学療法学科のアドミッション・ポリシー

理学療法学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

（知識・技能）

1. 高等学校までの履修科目のうち、「国語(国語総合)」を学び、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている人
2. 高等学校までの履修科目のうち、「英語」を学び、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている人
3. 事象を数学的に考え、表現する能力を育成するために、数学について基礎知識を身に付けている人
4. 自然の事物・現象について、科学的に探求する能力を育成するために、物理、化学、生物の中で1科目以上について基礎知識を身に付けている人
5. 情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を育成するために、情報の科学、社会と情報について基礎知識を身に付けている人

(思考力・判断力・表現力)

6. これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる人
(主体性)
7. 人を助けることや自身のやりがいについて、主体的に考え、積極的に取り組むことができる人

○健康スポーツ科学科のアドミッション・ポリシー

健康スポーツ科学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

1. 高等学校までの履修科目のうち、「国語(国語総合)」を学び、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている人
2. 高等学校までの履修科目のうち、「英語」を学び、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている人
3. 事象を数学的に考え、表現する能力を育成するために、数学について基礎知識を身に付けている人
4. 自然の事物・現象について、科学的に探求する能力を育成するために、物理、化学、生物の中で1科目以上について基礎知識を身に付けている人
5. 情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を育成するために、情報の科学、社会と情報について基礎知識を身に付けている人
6. 心身の健康維持増進や体力の向上に関する科学的あるいは実用的な知識やその活用方法を育成するために、保健体育について基礎知識を身に付けている人

(思考力・判断力・表現力)

7. これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することや、技術を実行することができる人
(主体性)
8. 人々の健康の維持増進や体力づくりについて、主体的に考え、積極的に取り組むことができる人

◎総合情報学部 アドミッション・ポリシー

総合情報学部は、多様な生活文化の創造を支えるために、情報技術の基礎知識および応用に関する実学教育ならびにコンテンツ制作活動を通じて、学生の学習成果の向上および学習目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的としています。このため、次のような学生を求めています。

1. 感性豊かで、モノづくりやデザインに対する強い主体的動機をもっている人
 2. 人を楽しませるための奉仕精神をもって努力する姿勢のある人
 3. 知識の獲得や実践について、主体的に学ぶ姿勢のある人
 4. 情報の基礎知識やコンテンツ制作技術を身に付けた教師（数学、情報など）になりたいと考えている人
 5. コミュニケーション能力を高めることで、協調性をもって活動しようとしている人
- 上記のアドミッション・ポリシーに加えて、各学科の教育方針に合わせて、学科のアドミッション・ポリシーを定めています。

○デジタルゲーム学科のアドミッション・ポリシー

デジタルゲーム学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

1. 高等学校までの履修教科のうち「数学」を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている。
2. 高等学校までの履修教科のうち「国語」を学び、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。
3. 高等学校までの履修教科のうち「英語」を学び、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。
4. 高等学校までの履修教科のうち「情報（社会と情報 または 情報の科学）」を学び、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を身に付けている。
5. 高等学校までの履修教科のうち「理科」を学び、自然の事物・現象について科学的に探究する能力を身に付けている。

(思考力・判断力・表現力)

6. これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる。
- (主体性)
7. 工学・科学・芸術を俯瞰する広い視野で学習や研究に取り組める人。
 8. 論理的思考能力あるいは視覚的表現力や芸術的創造力がある人。
 9. デジタル技術を応用したゲームやメディアアートを自らつくり、それが広く供されることで社会生活を豊かにしたい人。

○ゲーム&メディア学科のアドミッション・ポリシー

ゲーム&メディア学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

1. 高等学校までの履修教科のうち「国語」を学び、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。
2. 高等学校までの履修教科のうち「英語」を学び、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。
3. 高等学校までの履修教科のうち「情報（社会と情報または 情報の科学）」を学び、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を身に付けている。
4. 高等学校までの履修教科のうち「数学」を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている。
5. 高等学校までの履修教科のうち「理科」を学び、自然の事物・現象について科学的に探究する能力を身に付けている。

(思考力・判断力・表現力)

6. これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる。
(主体性)

7. 芸術・科学・工学を俯瞰する広い視野で学習や研究に取り組める人。

8. 視覚的表現力あるいは芸術的創造力や論理的思考能力がある人。

9. デジタル技術を応用したゲームやメディアアートを理解し、それを様々なメディア・手法を用いて伝え拡げることで社会生活を豊かにしたい人。

○情報学科のアドミッション・ポリシー

情報学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

1. 高等学校で数学に関する科目を学んだと同等以上かつ本学科において情報学及びコンピュータサイエンスを学ぶに必要な数学の基礎能力を有する。

2. 高等学校で情報に関する科目を学んだと同等以上の情報リテラシーまたは情報科学の基礎知識を有する。

3. 高等学校で国語に関する科目を学んだと同等以上の文章読解及び文章作成能力を有する。

4. 高等学校で英語に関する科目を学んだと同等以上の英語会話、英語読解、英語作文能力を有する。

(思考力・判断力・表現力)

5. 情報処理技術者として論理的に物事を考え説明できる。

(主体性)

6. 情報学を積極的に学ぶ意思を持ち主体的に物事に取り組むことができる。

◎金融経済学部のアドミッション・ポリシー

○資産運用学科のアドミッション・ポリシー

金融経済学部は、国家経済の健全な発展と繁栄に寄与することを目指し、国際的な視野に立ち、広範囲にわたる資産運用に関する実学教育を行い、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成を支援し、現代のグローバル社会で活躍できる有能な専門的人材を育成することを目的としています。このため、次のような学生を求めています。

- (1) 現実の世の中を動かす仕組みとしての経済や金融に興味をもつ人
 - (2) 習得した知識やスキルを、仕事を通して社会に活かしたいと考える人
 - (3) 社会活動の中で自分を成長させ、個人としての生活も充実させる意識と意欲のある人
- 上記のアドミッション・ポリシーに加えて、各学科の教育方針に合わせて、学科のアドミッション・ポリシーを定めています。

資産運用学科のアドミッション・ポリシー：

資産運用学科は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めています。

(知識・技能)

- (1) 高等学校までの履修科目のうち、「国語（国語総合）」を学び、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。【AP-A-1-1】
- (2) 高等学校までの履修科目のうち、「英語」を学び、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。【AP-A-1-2】
- (3) 高等学校までの履修科目のうち、「情報（社会と情報 または 情報の科学）」を学び、情報や情報技術に関する基本的な見方や考え方を身に付けている。【AP-A-1-3】
- (4) 高等学校までの履修科目のうち、「数学」を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている。【AP-A-1-4】
- (5) 高等学校までの履修科目のうち、「理科」を学び、自然の事物・現象について科学的に探究する能力を身に付けている。

【AP-A-1-5】

(思考力・判断力・表現力)

- (6) (1)～(5)に掲げた知識や能力を基に、自由な発想によって、思考力・判断力・表現力を一層高める意欲をもち、その結果として新たな価値を創造することができる。【AP-A-2-1】

(主体性)

- (7) 経済や金融全般の問題について、主体的に情報収集し、予断にとらわれることなく思考し、社会的な責任も踏まえて積極的に取り組むことができる。【AP-A-3-1】

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学 HP にて公表

<https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等名	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
工学部	—	35人	10人	3人	0人	0人	48人
情報通信工学部	—	11人	11人	0人	0人	0人	22人
医療福祉工学部	—	13人	7人	5人	0人	0人	25人
総合情報学部	—	19人	14人	1人	0人	0人	34人
金融経済学部	—	1人	1人	3人	0人	0人	5人
教養部（一般教育）	—	10人	11人	6人	0人	0人	27人
その他	—	0人	4人	4人	0人	0人	8人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			228人				228人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：本学ホームページにて公表 https://research.osakac.ac.jp/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
2018年度は計9回のFDを開催した。主なテーマは「学生教育改善委員会報告～本学に帰属意識の高い学生は授業をどのようにみているのか～」「アセスメント・ポリシー確立の取り組みについて」「新たなOECUキャリア教育科目「自分と社会のつながり」」など。 【全学部共通】							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	480人	532人	110.8%	1,760人	1,903人	108.1%	若干人	1人
情報通信工学部	240人	273人	113.8%	960人	1,037人	108.0%	若干人	1人
医療福祉工学部	190人	215人	113.2%	780人	794人	101.8%	10人	2人
総合情報学部	340人	360人	105.9%	1,310人	1,372人	104.7%	若干人	人
金融経済学部	0人	0人	0%	160人	90人	56.3%	一人	人
合計	1,250人	1,380人	110.4%	4,970人	5,196人	104.5%	10人	4人
(備考) 医療福祉工学部（医療健康科学部に2020年度より名称変更）								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	407人 (100%)	38人 (9.3%)	352人 (86.5%)	17人 (4.2%)
情報通信工学部	202人 (100%)	14人 (6.9%)	175人 (86.6%)	13人 (6.4%)
医療福祉工学部	159人 (100%)	10人 (6.3%)	138人 (86.8%)	11人 (6.9%)
総合情報学部	265人 (100%)	20人 (7.5%)	222人 (83.8%)	23人 (8.7%)
金融経済学部	62人 (100%)	1人 (1.6%)	51人 (82.3%)	10人 (16.1%)
合計	1,095人 (100%)	83人 (7.6%)	938人 (85.7%)	74人 (6.8%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)

主な就職先企業一覧 (2016年～2018年)

○電気電子工学科
 関西電力株式会社、株式会社大林組、株式会社きんでん、株式会社フジタ、日本電設工業株式会社、株式会社トーエネック、株式会社協和エクシオ、住友電設株式会社、ダイダン株式会社、株式会社NSD、ニチコン株式会社、株式会社立花エレテック、ペガサスミシン製造株式会社、新日鐵住金株式会社 鋼管事業部 尼崎製造所、日本システムウエア株式会社、三菱電機ビルテクノサービス株式会社、三菱電機システムサービス株式会社、関電ファシリティーズ株式会社、近畿日本鉄道株式会社、株式会社クマヒラ、株式会社近江兄弟社、栗原工業株式会社、新生テクノス株式会社、東芝インフラシステムズ株式会社、島津システムソリューションズ株式会社、日本電産テクノモータ株式会社、大阪府教育委員会、東近江市役所、福知山市役所、防衛省自衛隊 など

○電子機械工学科
 日本電産株式会社、株式会社小松製作所、三菱ケミカル株式会社、キューピー株式会社 神戸工場、株式会社ツバキ・ナカシマ、株式会社ダイフク、株式会社島精機製作所、株式会社堀場製作所、株式会社エクセディ、エスペック株式会社、株式会社ロック・フィールド、関西電力株式会社、株式会社きんでん、株式会社関電工、株式会社遠藤照明、シャープ株式会社、株式会社モリタホールディングス、NCホールディングス株式会社、日鉄住金テックスエンジ株式会社、ジョンソンコントロールズ株式会社、新生テクノス株式会社、株式会社立花エレテック、八洲電機株式会社、日本金銭機械株式会社、モリテックスチール株式会社、富士ソフト株式会社、三菱電機エンジニアリング株式会社、関電ファシリティーズ株式会社、叡山電鉄株式会社、大阪府警察本部、かつらぎ町役場、防衛省自衛隊 など

○機械工学科
 株式会社小松製作所、株式会社村田製作所、株式会社SCREENホールディングス、日本電産株式会社、船井電機株式会社、ダイハツ工業株式会社、新明和工業株式会社、株式会社島精機製作所、株式会社エクセディ、フジッコ株式会社、NCホールディングス株式会社、矢崎総業株式会社、サノヤスホールディングス株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、日本電設工業株式会社、住友電設株式会社、高松建設株式会社、株式会社朝日工業社、北陸電気工事株式会社、ペガサスミシン製造株式会社、株式会社ユーシン精機、モリテックスチール株式会社、西尾レントオール株式会社、関電ファシリティーズ株式会社、株式会社日立ビルシステム、三菱電機ビルテクノサービス株式会社、三菱電機エンジニアリング株式会社、島津エンジニアリング株式会社、東レエンジニアリング株式会社、ヤンマー農機製造株式会社、田村薬品工業株式会社 など

○基礎理工学科
 大阪府教育委員会、大阪市教育委員会(常勤講師)、京都市教育委員会(常勤講師)、堺市教育委員会(常勤講師)、守口市教育委員会(常勤講師)、豊中市教育委員会(常勤講師)、学校法人東洋学園、学校法人英真学園 英真学園高等学校(常勤講師)、大阪府庁、大阪府警察本部、京都府警察本部、防衛省自衛隊、株式会社明治、小林製薬株式会社、本州化学工業株式会社、ジョンソンコントロールズ株式会社、新生テクノス株式会社、総合警備保障株式会社、株式会社立花エレテック、三菱電機株式会社、三菱電機システムサービス株式会社、関電ファシリティーズ株式会社、株式会社島津アクセス、キャノンシステムアンドサポート株式会社 など

○環境科学科
 グンゼ株式会社、文化シャッター株式会社、株式会社ダイフク、ニチアス株式会社、芦森工業株式会社、

エスペック株式会社、フジッコ株式会社、株式会社鶴見製作所、モリテックスチール株式会社、株式会社NTT ファシリティーズ関西、株式会社イシダ、独立行政法人水資源機構、株式会社日立ビルシステム、三菱電機ビルテクノサービス株式会社、三菱電機システムサービス株式会社、株式会社島津アクセス、近畿日本鉄道株式会社、新晃工業株式会社、株式会社ネクステージ、東テック株式会社、株式会社コロブラ、旭情報サービス株式会社、ダイダグ株式会社、株式会社ミライト・テクノロジーズ、北陸電気工事株式会社、株式会社テクノ菱和、株式会社かんでんエンジニアリング、大阪府教育委員会、堺市教育委員会、大阪府教育委員会(常勤講師)、兵庫県教育委員会(常勤講師)、京都府教育委員会(常勤講師)、学校法人神戸村野工業高等学校、学校法人関西金光学園 関西福祉大学金光藤蔭高等学校、大阪府警察本部、防衛省自衛隊 など

○情報工学科

富士通株式会社、NEC ネットウェア株式会社、Sky 株式会社、株式会社 KYOSO、株式会社 CIJ ネクスト、三菱電機コントロールソフトウェア株式会社、株式会社NTT フィールドテクノ、NEC ソリューションイノベーション株式会社、株式会社アルファシステムズ、サトーホールディングス株式会社、株式会社NSD、日本システムウェア株式会社、NCS&A 株式会社、株式会社システナ、株式会社スクウェア・エニックス、株式会社キューブシステム、旭情報サービス株式会社、株式会社 JIEC、株式会社インフォメーション・ディベロプメント、三菱電機システムサービス株式会社、西菱電機株式会社、東洋紡エンジニアリング株式会社、NTT ビジネスソリューションズ株式会社、株式会社 SCREEN ホールディングス、グローリー株式会社、日本航空電子工業株式会社、日本電産シンボ株式会社、日本金銭機械株式会社、オブテックス株式会社、株式会社リョーサン、ダイワボウ情報システム株式会社、キャノンシステムアンドサポート株式会社、株式会社協和エクシオ、株式会社ミライト、株式会社ミライト・テクノロジーズ、株式会社かんでんエンジニアリング、株式会社NTT ファシリティーズ関西 など

○通信工学科

関西電力株式会社、富士通ネットワークソリューションズ株式会社、株式会社 NHK アイテック、日本コムシス株式会社、日本電設工業株式会社、株式会社協和エクシオ、NDS 株式会社、株式会社ミライト、日鉄住金テックスエンジニアリング株式会社、シーキューブ株式会社、株式会社ミライト・テクノロジーズ、サンワコムシスエンジニアリング株式会社、北陸電気工事株式会社、日本電通株式会社、株式会社かんでんエンジニアリング、株式会社NSD、株式会社シーイーシー、京セラコミュニケーションシステム株式会社、株式会社 Minori ソリューションズ、株式会社NTT フィールドテクノ、株式会社エヌ・ティ・ティネオメイト、株式会社ミライト情報システム、株式会社 CIJ ネクスト、島津エス・ディー株式会社、DX アンテナ株式会社、株式会社日伝、キャノンシステムアンドサポート株式会社、コニカミノルタジャパン株式会社、総合警備保障株式会社、西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社、警察庁 近畿管区警察局、防衛省自衛隊 など

○医療福祉工学科

ニプロ株式会社、キャノンシステムアンドサポート株式会社、東洋シャッター株式会社、日本ステリ株式会社、島津メディカルシステムズ株式会社、ロングライフホールディング株式会社、ミナト医科学株式会社、アークレイ株式会社、グリーンホスピタルサプライ株式会社、泉工医科工業株式会社、独立行政法人地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター、社会医療法人信愛会 暇生会脳神経外科病院、地方独立行政法人大阪市民病院機構、高島市民病院、社会福祉法人恩賜財団済生会 大阪府済生会中津病院、国立大学法人福井大学 福井大学医学部附属病院、市立豊中病院、国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院、三菱京都病院、泉大津市立病院、学校法人関西医科大学、国立大学法人愛媛大学 愛媛大学医学部附属病院、大阪市立総合医療センター など

○理学療法学科

公立大学法人和歌山県立医科大学、鳥取医療生活協同組合、医療法人幸生会 琵琶湖中央病院、社会福祉法人恩賜財団済生会 奈良病院 リハビリテーション部、医療法人社団生和会 登美ヶ丘リハビリテーション病院、社会医療法人純幸会 関西メディカル病院、社会医療法人美杉会、医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院、一般財団法人大阪府警察協会 北大阪警察病院、医療法人健康会 京都南病院グループ、社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院、社会医療法人黎明会、医療法人清水会、学校法人関西医科大学、武田病院グループ、独立行政法人労働者健康安全機構 神戸労災病院、医療法人協和会 など

○健康スポーツ科学科

リゾートトラスト株式会社、総合警備保障株式会社、株式会社立花エレテック、東洋テック株式会社、住友不動産販売株式会社、株式会社ルネサンス、株式会社マイナビ、上新電機株式会社、三協立山株式会社、株式会社あさひ、株式会社東洋、社会医療法人黎明会メディカル&フィットネスアクト、大和ハウスリフォーム株式会社、イカリソース株式会社、阪急電鉄株式会社、ANA エアポートサービス株式会社、クラブツーリズム株式会社、トヨタカローラ新大阪株式会社、株式会社オージースポーツ、株式会社エポックススポーツクラブ、マック体操クラブ、伊勢湾マリン開発株式会社、日本赤十字社、東大阪商工会議所、大阪府警察本部 など

○デジタルゲーム学科 (デジタルアート・アニメーション学科含む)

株式会社カプコン、東映株式会社、ヤフー株式会社、株式会社サイバーエージェント、株式会社コロプラ、株式会社トーセ、株式会社ボルテージ、富士ソフト株式会社、株式会社島精機製作所、三菱電機マイコン機器ソフトウェア株式会社、株式会社 LIXIL ビバ、株式会社 AOI Pro.、株式会社びえろ、株式会社ティー・ワイ・オー、株式会社 Aiming、株式会社アニマ、GMO クラウド株式会社、株式会社 CRAFTS & MEISTER、株式会社オー・エル・エム・デジタル、株式会社グラフィック、CGCG スタジオ株式会社、株式会社サンフォニックス、株式会社ゲオホールディングス、株式会社クリーク・アンド・リバー社、株式会社タケナカ、株式会社石田大成社、株式会社 SRD、株式会社ナウプロダクション、株式会社東京サウンド・プロダクション、株式会社ダイナモピクチャーズ、株式会社ウィットスタジオ、イグニス・イメージワークス株式会社、株式会社オムニバス・ジャパン、株式会社東通インフィニティー、株式会社佳夢音、株式会社サムライピクチャーズ、上新電機株式会社、株式会社ユニクロ、日本郵便株式会社 など

○情報学科

ヤフー株式会社、株式会社カプコン、富士ソフト株式会社、キヤノン IT ソリューションズ株式会社、株式会社ミロク情報サービス、近鉄ケーブルネットワーク株式会社、日本システム技術株式会社、株式会社ソフトウェア・サービス、株式会社システムリサーチ、株式会社コア 関西カンパニー、株式会社ラクス、株式会社日本ビジネス開発、株式会社 NTT データ MSE、三菱電機コントロールソフトウェア株式会社、都築テクノサービス株式会社、コンピューターマネージメント株式会社、京セラドキュメントソリューションズ株式会社、ホーチキ株式会社、日本電産リード株式会社、上新電機株式会社、株式会社立花エレテック、株式会社たけびし、リコージャパン株式会社、総合警備保障株式会社、住電通信エンジニアリング株式会社、防衛省自衛隊、下市町役場 など

○資産運用学科

株式会社みずほ銀行、株式会社南都銀行、株式会社広島銀行、日本アジア証券株式会社、内藤証券株式会社、SMB C コンシューマーファイナンス株式会社、株式会社ローソン、株式会社ゲオホールディングス、コーナン商事株式会社、株式会社ヨドバシカメラ、株式会社エディオン、株式会社レオパレス21、ラオックス株式会社、ロイヤルホームセンター株式会社、アパグループ株式会社、株式会社ロック・フィールド、大阪ダイハツ販売株式会社、大阪府警察本部、防衛省自衛隊 など

以下の URL で公開

<https://www.osakac.ac.jp/career/job/result-2016/>

(備考)

医療福祉工学部 (医療健康科学部に 2020 年度より名称変更)

医療福祉工学科 (医療科学部に 2020 年度より名称変更)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	463人 (100%)	352人 (76.0%)	55人 (11.9%)	55人 (11.9%)	1人 (0.2%)
情報通信工学部	245人 (100%)	161人 (65.7%)	32人 (13.1%)	52人 (21.2%)	0人 (0%)
医療福祉工学部	184人 (100%)	137人 (74.5%)	18人 (9.8%)	25人 (13.6%)	4人 (2.2%)
総合情報学部	314人 (100%)	234人 (74.5%)	34人 (10.8%)	45人 (14.3%)	1人 (0.3%)
金融経済学部	81人 (100%)	51人 (63.0%)	10人 (12.3%)	19人 (23.5%)	1人 (1.2%)
合計	1287人 (100%)	935人 (72.6%)	149人 (11.6%)	196人 (15.2%)	7人 (0.5%)
(備考) 2019年4月1日に転学部した学生はその他に計上しています。 医療福祉工学部（医療健康科学部に2020年度より名称変更）					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>○授業計画書の作成過程 各教員の作成後、各学科の主任、教務委員及び学部長等による内容の点検を経ている。</p> <p>○授業計画書の作成・公表時期 1月から2月頃にシラバスが作成され、点検を経て、履修登録開始の約1週間前（3月下旬）までに本学HP等で公表している。</p> <p>【全学部共通】</p>
--

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバスにおいて「評価方法と評価観点」の項目を置き、定期試験、小テスト、小論文、グループワーク、プレゼンテーション、レポート、宿題、授業での姿勢（ノート、質疑など）、作品、パフォーマンス（実技、実演）といった評価方法を示し、それぞれについて、「知識・理解力応用力」「創造力」「コミュニケーション力」「態度・志向性」といった評価観点及び、評価割合を示している。</p> <p>このように、評価方法と評価観点ごとに評価の割合をあらかじめ示し、学修成果をはかるため試験等により厳格かつ適正な単位授与を実施している。</p> <p>【全学部共通】</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	電気電子工学科	128 単位	有・無	48 単位
	電子機械工学科	128 単位	有・無	48 単位
	機械工学科	128 単位	有・無	48 単位
	基礎理工学科	128 単位	有・無	48 単位
	環境科学科	128 単位	有・無	48 単位
	建築学科	128 単位	有・無	50 単位

情報通信工学部	情報工学科	128 単位	有・無	48 単位
	通信工学科	128 単位	有・無	48 単位
医療福祉工学部	医療福祉工学科	128 単位	有・無	48 単位
	理学療法学科	128 単位	有・無	48 単位
	健康スポーツ科学科	128 単位	有・無	48 単位
総合情報学部	デジタルゲーム学科	128 単位	有・無	50 単位
	ゲーム&メディア学科	128 単位	有・無	50 単位
	情報学科	128 単位	有・無	48 単位
金融経済学部	資産運用学科	124 単位	有・無	50 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法：『学修必携』に記載し、学生全員に配付 【全学部共通】		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：成績配付時 (9 月, 2 月) に学生生活自己評価アンケートの結果を HP にて公表 【全学部共通】		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学 HP にて公表 寝屋川キャンパス： https://www.osakac.ac.jp/institution/campus/neyagawa/ 四條畷キャンパス： https://www.osakac.ac.jp/institution/campus/shijonawate/ 駅前キャンパス： https://www.osakac.ac.jp/institution/campus/neyagawa/#ekimae

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
工学部, 情報通信 工学部, 総合情報 学部	全学科 2008年度 から2018 年度まで の入学者	985,000円	—円	347,000円	その他費用 維持拡充費, 学生活動支援費
	全学科 2019年度 からの入 学者	1,282,000円	200,000円	—円	
医療福祉 工学部	医療福祉 工学科 2008年度 から2018 年度まで の入学者	985,000円	—円	397,000円	その他費用 維持拡充費, 学生活動支援費, 実験実習料
	医療福祉 工学科 2019年度 からの入 学者	1,282,000円	200,000円	50,000円	その他費用 実験実習料
	理学療法 学科 2008年度 から2018 年度まで の入学者	985,000円	—円	647,000円	その他費用 維持拡充費, 学生活動支援費, 実験実習料
	理学療法 学科 2019年度 からの入 学者	1,182,000円	200,000円	300,000円	その他費用 実験実習料
	健康スポ ーツ科学 科 2008年度 から2018 年度まで の入学者	985,000円	—円	347,000円	その他費用 維持拡充費, 学生活動支援費, 実習料
	健康スポ ーツ科学 科 2019年度 からの入 学者	1,082,000円	200,000円	100,000円	その他費用 実習料
金融経済 学部	資産運用 学科	800,000円	—円	207,000円	その他費用 維持拡充費, 学生活動支援費, 実習料

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

(概要) 【全学部共通】

◆OECU MyPage

学生ポータルサイトです。

機能一覧

- ・時間割
- ・お知らせ情報
- ・休講情報
- ・アンケート
- ・ポートフォリオ
- ・学生情報リンク
- ・修学支援情報

◆OECU メール

学生専用のメールアドレスです。

◆総合学生支援センター

これまで個々の学生のメンタル面や学修・学生生活について相談を行ってこられた学生相談室は、2016年度より障害学生への支援を含めた、総合学生支援センターへ拡充されました。総合学生支援センターには、下記の二つの支援室が設置されています。

●学生支援室

学生支援室では、全学生を対象として、学生生活上のさまざまな問題の相談にカウンセラーが対応します。本学の学生であれば、誰でも気軽に利用できます。

大学生活で出会うさまざまな問題や悩みについて、共に考え、学生自身が主体的に解決していくための援助を行うところが学生支援室です。

こんなときは気軽に相談してください。

- 自分の生き方や将来について不安になった
- 自分で物事が決められずあれこれ迷ってしまう
- 友人関係がうまくいかない
- 下宿や家庭での生活がどうもうまくいかない
- 性に悩んでいる
- 周囲の目が気になる
- 気分が落ち込んだり、イライラしたりすることが多くなった
- 授業について行けない
- 悪徳商法にひっかかった

●自立支援室

2016年度より施行された「障害者差別解消法」により、大学においては、障害のある学生に対して、障害による学修や大学生活上の困難について、適切な配慮を行う努力が義務づけられました。

本学においては、自立支援室を設け、障害により学修や学生生活において特別な困難をかかえている障害学生について、専門の自立支援コーディネーターが相談・支援を行います。

一人で抱え込まず、まずは気軽に相談してください。

※ここでの障害のある学生とは、本学の学生であって、身体障害（視覚障害、聴覚障害、肢体障害、内部障害）、精神障害、発達障害及びその他の心身の機能の障害のある学生をさします。障害については、医師の診断書や身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳などの手帳取得の有無などは問いません。

●障がい学生の自立的学修支援に対するガイドライン

このガイドラインは、障がいのある学生が学修上で差別を受けることなく、自立して就学できる学びの場を提供していくために、全学の指針として定めています。

1. 本ガイドラインで対象とする障がいのある学生とは、本学に在籍する学部学生、大学院生、留学生及び科目履修生等であって、本学において学修を進める上で、障がいにより特別な困難

がある学生を指します。

2. 本ガイドラインで対象とする障がいとは、身体障がい（視覚・聴覚・肢体・内部障がい等）、精神障がい、発達障がい及びその他の心身の機能における障がいを指します。

3. 本学では、前項のような障がいのある学生が何ら差別を受けることなく自立的な学修を進め、充実した学生生活を享受できるように、特別な支援を必要とするそれぞれの学生に対して、可能な限り必要な合理的配慮を行います。

4. 障がいのある学生に対する支援の相談窓口として、総合学生支援センターの中に自立支援室を設置し、コーディネータが室長を務めています。

5. 本学に入学を希望する者で、入学後に特別な支援を必要とすることが予想される場合については、可能な合理的配慮について事前に協議することによって、必要な支援を円滑に提供します。

6. 支援を必要とする学生一人ひとりに対する個別の合理的配慮に基づく支援については、当該学生とその保護者並びにコーディネータ、カウンセラー、学科の教員、その他関連の教職員によって適切な内容を協議した上で実施します。

7. 本学では、障がいのある学生に対する差別の防止並びに自立支援や合理的配慮に関し、全ての教職員及び学生に対して理解を深める努力を継続します。

◆ラーニング・コモンズ

「学生個人に合わせた学修支援を実施」

「ラーニング・コモンズ」は、学生の皆さんの学修支援を教職員やOB教職員、学生などが相談役となり、運営しています。

〈実施プログラム〉

◦数学／物理質問相談室 ◦数学オフィスアワー

◦英語学習サポート ◦国際交流サロン

※「数学／物理質問相談室」は、数学と物理の授業で分からないことを学生個人の進捗状況に合わせて指導します。

◆英語教育研究センター

全学の英語授業、および授業以外での英語学習支援を行っています。

本学英語教育研究センターでは英語学習支援室を設け、英語を苦手とする学生の皆さんをはじめ、更なる英語力向上を目指す学生の皆さんへの学習支援、およびTOEIC等の資格取得などの支援を行っています。

支援室開室時には英語教育研究センターの教員が常駐していますので、気軽に英語に関する質問、学習方法などを相談してください。教員と相談しながら自分に合う学習方法を見つけしていくこともできます。

◆自由工房

自由工房は、大阪電気通信大学がバックアップする「ものづくり」の課外活動の場です。学年や学科に関わらず誰でも参加できます。二つのキャンパスにそれぞれ活動拠点があり、各種ロボット、電気自動車、マイコン教育などのプロジェクトが活動しています。各プロジェクトでは、様々な設計や加工ができる設備が整っており、技術スタッフからいつでもアドバイスを受けることができます。

参加希望者はいずれかの活動プロジェクトに所属して活動することになりますが、既存の活動以外のことにチャレンジすることも可能です。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

【全学部共通】

◆就職支援

年々、早期化する就職活動に対応するために早くから就職支援に取り組んでいます。本学では低学年のキャリア支援講座の流れを受けて、3年次進級時から定期的に就職ガイダンスを実施します。さらに、より実践的な就職支援講座を実施し、本格的な就職活動に向けての準備を進めます。

●低年次進路ガイダンス

1年次と2年次の前期と後期にそれぞれ1回ずつ、計4回実施します。本格的な就職活動の準備ではなく、各自の進路について主体的に考え、大学生活や将来の目標を立てていきます。また、興味・関心を見つけ出し、早い段階から能力や可能性を広げていきます。

●就職ガイダンス

就職部スタッフによる就職ガイダンスを3年次進級時から4年次4月まで定期的に8回実施します。各時期のトピックスや学内行事などを案内し、就職に対する意識を高めるようにします。就職活動のノウハウよりも納得のいく就職、進路が決定できるように意識喚起を行います。

●就職支援講座

3年次9月から専門講師を招いての実践的な就職支援講座を実施します。できるだけ実際に体験できるような内容で、基本的にはすべて無料で受講ができます。毎年、学生の要望や就職環境をふまえながら講座を実施します。講座内容は、主に自己分析、自己PR、エントリーシート対策、筆記試験対策、マナー、面接対策、グループディスカッション講座など基本的な講座です。具体的には、筆記試験対策では、SPIや一般常識などの問題を解説する講義形式と模擬テストをより本番に近い形で実施します。また、エントリーシート対策では、目的や書き方から実際にエントリーシートを書くことによる添削指導、解説までを実施します。

●適性検査

まず、入学時から実施している適性検査の結果をもとに、各自の進路について主体的に科目の履修計画と資格取得など各自の目標設定とキャリア意識の向上を図ることができます。2年次以降、学生生活を振り返り、各自の「目標」を見直したり、自己PR力の養成や業界研究・職種研究に活かすために、就職適性検査を実施したりして大学生活での成長の度合いや自分の特性を客観的に見ることが出来ます。

●業界研究セミナー

企業の人事担当者または現場担当者を招き、講演を行います。各業界の動向や現状など、実際の現場の声を聞くことができます。その結果、業界が求めている人材について理解を深め、自分がめざす世界や方向を明確に把握できることを目標とします。

●学内合同企業説明会、病院説明会

本学の学生に対して採用意欲の高い企業や各学科の特色に合った企業の人事担当者を招き、両キャンパスでブース形式による説明を行います。3年次3月から4年次9月ごろまで実施し、両キャンパスで年間約40回程度実施します。

また、病院就職希望者（臨床工学技士、理学療法士）を対象とした合同病院説明会を4年次9月と10月に四條畷キャンパスで実施します。

●卒業生に対する就職支援

本学では、卒業後も就職支援を行っています。既卒者向けの求人紹介、個別相談、面接指導など各々の希望や状況に応じた支援です。

また、ハローワークやジョブカフェの活用方法も紹介しています。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

◆医務室

医務室では、病気や怪我の応急処置・医療機関の案内・健康相談などを行っていますので気軽にご利用ください。

◆総合学生支援センター

これまで個々の学生のメンタル面や学修・学生生活について相談を行ってきました学生相談室は、2016年度より障害学生への支援を含めた、総合学生支援センターへ拡充されました。

総合学生支援センターには、下記の二つの支援室が設置されています。

●学生支援室

学生支援室では、全学生を対象として、学生生活上のさまざまな問題の相談にカウンセラーが対応します。本学の学生であれば、誰でも気軽に利用できます。

大学生活で出会うさまざまな問題や悩みについて、共に考え、学生自身が主体的に解決していくための援助を行うところが学生支援室です。

こんなときは気軽に相談してください。

- 自分の生き方や将来について不安になった
- 自分で物事が決められずあれこれ迷ってしまう
- 友人関係がうまくいかない
- 下宿や家庭での生活がどうもうまくいかない
- 性に悩んでいる
- 周囲の目が気になる
- 気分が落ち込んだり、イライラしたりすることが多くなった
- 授業について行けない
- 悪徳商法にひっかかった

●自立支援室

2016年度より施行された「障害者差別解消法」により、大学においては、障害のある学生に対して、障害による学修や大学生活上の困難について、適切な配慮を行う努力が義務づけられました。

本学においては、自立支援室を設け、障害により学修や学生生活において特別な困難をかかえている障害学生について、専門の自立支援コーディネーターが相談・支援を行います。

一人で抱え込まず、まずは気軽に相談してください。

※ここでの障害のある学生とは、本学の学生であって、身体障害（視覚障害、聴覚障害、肢体障害、内部障害）、精神障害、発達障害及びその他の心身の機能の障害のある学生をさします。障害については、医師の診断書や身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳などの手帳取得の有無などは問いません。

●障がい学生の自立的学修支援に対するガイドライン

このガイドラインは、障がいのある学生が学修上で差別を受けることなく、自立して就学できる学びの場を提供していくために、全学の指針として定めています。

1. 本ガイドラインで対象とする障がいのある学生とは、本学に在籍する学部学生、大学院生、留学生及び科目履修生等であって、本学において学修を進める上で、障がいにより特別な困難がある学生を指します。
2. 本ガイドラインで対象とする障がいとは、身体障がい（視覚・聴覚・肢体・内部障がい等）、精神障がい、発達障がい及びその他の心身の機能における障がいを指します。
3. 本学では、前項のような障がいのある学生が何ら差別を受けることなく自立的な学修を進め、充実した学生生活を享受できるように、特別な支援を必要とするそれぞれの学生に対して、可能な限り必要な合理的配慮を行います。
4. 障がいのある学生に対する支援の相談窓口として、総合学生支援センターの中に自立支援室を設置し、コーディネーターが室長を務めています。
5. 本学に入学を希望する者で、入学後に特別な支援を必要とすることが予想される場合については、可能な合理的配慮について事前に協議することによって、必要な支援を円滑に提供しま

す。

6. 支援を必要とする学生一人ひとりに対する個別の合理的配慮に基づく支援については、当該学生とその保護者並びにコーディネータ、カウンセラー、学科の教員、その他関連の教職員によって適切な内容を協議した上で実施します。

7. 本学では、障がいのある学生に対する差別の防止並びに自立支援や合理的配慮に関し、全ての教職員及び学生に対して理解を深める努力を継続します。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学 HP にて公表

<https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/ir/>